THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2013

20

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2013年度

2015　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2013

20

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2013年度

2015　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

熊本大学は遺跡の上にあるため，工事のたびに遺跡が顔をだす。2013年度に本学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」）が実施した調査は62件であった．今年度は例年より調査件数が多く，また調査面積の広いものも少なくなかったため，センターは終始フル回転であった．

黒髪南地区の白川沿いの一帯が近・現代の墓地であったことを知る人は少ないだろう．国際革新技術研究拠点施設新営その他工事にかかわる発掘では，120余基の墓が掘り出された．ここは明治時代以降熊本監獄（1922年より熊本刑務所に改称）の受刑者が葬られた地で，旧黒髪村の墓に続いている．桶形に開けられた土壙の中に現れた受刑者は座った姿勢で，囚人札や数珠が添えられていた．徳利が添えられた人もいた．受刑者たちは九州人の形質変化を研究するための学術資料としてNPO法人人類学研究機構（山口県）に引き取られ，今はその収蔵庫に眠っている．

本荘中地区ではこれまでと同様に，８世紀から９世紀の集落の広がりを確認することができた．本荘地区では立派な四面廂（しめんびさし）のある建物がこれまでの調査で見つかっており，「主帳」，「秋本寺」，「佛」などの文字を刻んだ器も知られる．西の国府や池辺寺とも関わりを持っていたのであろうこの地の賑わいが，毎年着実に復元されてきている．

遺跡の調査担当者は，調査報告書を作成するに当たってしばしば発掘作業以上のエネルギーと時間を消費し，刷り上がった冊子を見てようやく一つの仕事を完成した喜びと社会的責任を果たしたという安堵を得る．学長裁量経費を頂き，2013年度は1999・2002・2012年度調査の報告書を刊行した．あと一息で過去の調査の報告書刊行が終了する．

学内遺跡を紹介したパンフレット「地下の文化財」（黒髪町遺跡群）は，中国語版・英語版・ハングル版が完成し，今年は新たに「地下の文化財」（本庄遺跡）を作成した．５月にはこれを用いた文化財散歩を，11月のホームカミングデーにはキャンパスツアー「地下の文化財散歩」を実施し，合計51名の参加者を得た．

2013年度も施設部をはじめとする関係部局にお世話になった．各位にあつく御礼を申し上げたい．

2015年３月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2013年４月１日から2014年３月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．
2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．
3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），医学部保健学科構内（KHJ），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡薬学部構内（HJP）．
4．調査地点配置図および遺構図の座標は，世界測地系による．
5．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．
6．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．
7．本書の執筆は，付篇および表２を大崎，Ⅰ章を大坪，Ⅱ章を大坪・柴田・山野，英文サマリー・ハングルサマリーを大坪・山野，抄録を山野が行った．
8．本書の編集は大坪が行った．

目　次

<本文目次>

第Ⅰ章　本年度の調査概要――1
第Ⅱ章　調査の記録――7
Ⅱ－1　黒髪北地区――7
1．（黒髪北）附属図書館中央館樹木伐採工事に伴う立会調査（1301）――7
2．（黒髪北）附属図書館中央館改修機械設備工事に伴う立会調査（1302）――10
3．（黒髪北）附属図書館中央館改修電気設備工事に伴う立会調査（1303）――11
4．（黒髪北）五高記念館前湯水補修工事に伴う立会調査（1304）――11
5．（黒髪北）附属図書館中央館外構工事に伴う立会調査（1306）――11
6．（黒髪北）事務局本館西側側溝補修工事に伴う立会調査（1307）――12
7．（黒髪北）知命堂屋外湯水補修工事に伴う立会調査（1312）――13
8．（黒髪北）テニスコート改修工事に伴う立会調査（1313）――13
9．（黒髪北）知命堂改修工事に伴う立会調査（1314）――14
10．（黒髪北・黒髪南）都市計画事業　中部及び東部処理区雨水吐貯留管（C-3，E-4）築造工事に伴う立会調査（1315）――14
11．（黒髪北・黒髪南）交通安全施設更新工事に伴う立会調査（1334）――16
12．（黒髪北）全学教育棟（C棟）スロープ取設工事に伴う立会調査（1338）――16
13．（黒髪北・黒髪南）屋外サイン設置工事に伴う立会調査（1339）――17
14．（黒髪北）黒髪北倉庫A（旧外国人宿舎）改修工事に伴う立会調査（1340）――18
15．（黒髪北）黒髪北倉庫A改修機械設備工事に伴う立会調査（1354）――19
16．（黒髪北）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1355）――19
17．（黒髪北）仮設駐車場取設工事に伴う立会調査（1359）――20
18．（黒髪北）重要文化財五高記念館他耐震診断業務に伴う立会調査（1360）――21
Ⅱ－2　黒髪南地区――23
1．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営工事に伴う立会調査（試掘）――23
2．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障樹木移植等工事に伴う立会調査（1305）――25
3．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営その他工事に伴う立会調査（1309）――26
4．（黒髪南）ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う立会・発掘調査（1310）――28
5．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障配管替工事に伴う立会調査（1311）――35
6．（黒髪北・黒髪南）屋外サイン設置工事に伴う立会調査（1339）――36
7．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修工事に伴う立会調査（1346）――37
8．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修工事に伴う立会調査（1347）――37
9．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修電気設備工事に伴う立会調査（1348）――39
10．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修機械設備工事に伴う立会調査（1349）――39
11．（黒髪南）重要文化財工学部研究資料館耐震診断業務に伴う立会調査（1361）――41
Ⅱ－3　本荘北地区――42
1．（医病）中央診療棟東側汚水枡蓋取設工事に伴う立会調査（1316）――42
2．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（舗装・構造物関係）に伴う立会・発掘調査（1320）――42
3．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）に伴う立会・発掘調査（1321）――42
4．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）に伴う立会・発掘調査（1322）――46
5．（医病）作業室改修機械設備工事に伴う立会調査（1323）――47
6．（医病）設備管理棟ボイラー設備等工事（配管工事）に伴う立会調査（1324）――47
7．（医病）基幹整備（電気設備）工事に伴う立会調査（1325）――48

8．（医病）旧電話交換室改修機械設備工事に伴う立会調査（1326）――48
9．（医病）旧電話交換室改修工事に伴う立会調査（1327）――49
10．（医病）看護師宿舎屋外ガス配管改修工事に伴う立会調査（1328）――49
11．（医病）駐車場ゲートインターホン移設工事に伴う立会調査（1329）――50
12．（医病）設備管理棟ボイラー設置等工事（重油地下タンク更新・汚染土壌除去）に伴う立会・発掘調査（1333）――50
13．（医病）外来診療棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1337）――51
Ⅱ－4 本荘中地区――52
1．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（地下タンク）に伴う立会調査（1317）――52
2．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（発電機設備）に伴う立会調査（1318）――54
3．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（埋設配管）に伴う立会調査（1319）――56
4．（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事に伴う立会調査（1331）――56
5．（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事に伴う立会調査（1332）――57
6．（本荘中他）基幹整備（給水設備等）工事（本荘中地区分）に伴う立会調査（1345）――58
Ⅱ－5 大江地区（薬学部）――60
1．（大江北）薬学部倉庫1とりこわし工事に伴う立会調査（1308）――60
2．（大江北）薬学部北門入口胸像設置工事に伴う立会調査（1356）――61
3．（大江北）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1357）――62
4．（大江北）支障樹木撤去に伴う立会調査（1358）――62
5．（大江北）PHS更改工事に伴う立会調査（1335）――63
6．（黒髪南他）都市ガスメーター取替工事に伴う立会調査（1363）――63
Ⅱ－6 京町地区――64
1．（京町）教育学部附属中学校門扉改修工事に伴う立会調査（1341）――64
2．（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事に伴う立会・発掘調査（1342）――65
3．（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1343）――66
4．（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事に伴う立会調査（1344）――68
5．（京町）支障樹木撤去に伴う立会調査（1350）――69
6．（京町）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1351）――70
7．（京町）教育学部附属中学校卒業記念時計台設置工事に伴う立会調査（1362）――71
Ⅱ－7 城東地区――72
1．（城東）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事に伴う立会調査（1330）――72
2．（城東）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1336）――72
3．（城東）教育学部附属幼稚園ブロック塀改修工事に伴う立会調査（1352）――73

跋文――75
Summary――76
付篇1――77
付篇2――79
報告書抄録――81

＜図版目次＞

図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）――2
図2 黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）――8
図3 黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）――9
図4 黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）――24
図5 本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）――43
図6 本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）――53
図7 大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）――61
図8 京町地区における調査地点配置図（1/3000）――65

<写真目次>

写真1　樹木伐根作業風景（サルスベリ）（南から）―7
写真2　樹木伐根掘削状況（サルスベリ）（南から）―7
写真3　樹木伐根作業風景（ナギ）（南から）―7
写真4　樹木伐根状況（ナギ）（南から）―7
写真5　樹木伐根状況（潅木）（西から）―7
写真6　オイルタンク撤去前近景（東から）―10
写真7　オイルタンク周辺掘削状況（東から）―10
写真8　北面西端都西側ガス管掘削包含層完掘状況（東より）―10
写真9　住居址及び柱穴完掘状況（北より）―10
写真10　土坑内遺物出土状況（西より）―10
写真11　電気設備部分掘削状況（南より）―11
写真12　水道管検出状況（西より）―11
写真13　ピット完掘状況（南より）―12
写真14　溝完掘状況（西より）―12
写真15　溝土層断面（西より）―12
写真16　事務局本館西口北側作業風景（北西より）―12
写真17　事務局本館西口北側掘削状況（北西より）―13
写真18　事務局本館西口北側掘削状況（西より）―13
写真19　事務局本館西側緑地帯南端部掘削状況（北西より）―13
写真20　水道管検出状況（南より）―13
写真21　北側支柱撤去作業風景（東より）―13
写真22　北側支柱トレンチ東壁土層（西より）―14
写真23　作業風景（北より）―14
写真24　掘削状況（西より）―14
写真25　①地点西トレンチ作業風景（東より）―15
写真26　①地点西トレンチ掘削状況（東より）―15
写真27　①地点東トレンチ掘削状況（東より）―15
写真28　②地点西トレンチ掘削状況（東より）―15
写真29　②地点東トレンチ掘削状況（東より）―15
写真30　③地点南トレンチ掘削状況（北より）―15
写真31　③地点北トレンチ掘削状況（西より）―16
写真32　東トレンチ作業風景（北東より）―16
写真33　東トレンチ掘削状況（西より）―16
写真34　西トレンチ作業風景（西より）―16
写真35　西トレンチ掘削状況（南より）―16
写真36　スロープ基礎設置部分掘削状況（南より）―17
写真37　⑱地点包含層掘削状況（南より）―17
写真38　⑱地点包含層掘削状況（南より）―17
写真39　㉘地点包含層掘削状況（南より）―18
写真40　N－C地点遺構検出状況（東より）―18
写真41　E地点掘削状況（西より）―18
写真42　③地点掘削状況（北より）―18
写真43　④地点掘削状況（西より）―18
写真44　㉕地点作業風景（西より）―18
写真45　スロープ基礎部分掘削状況（南より）―19
写真46　人力掘削作業風景（北西より）―19
写真47　掘削状況（北より）―19
写真48　掘削範囲遠景（南より）―20
写真49　北トレンチ掘削状況（東より）―20
写真50　中央トレンチ掘削状況（東より）―20
写真51　南トレンチ掘削状況（東より）―20
写真52　フェンス基礎抜取作業風景（東より）―20
写真53　フェンス基礎掘削状況（西より）―20
写真54　重機掘削作業風景（北東より）―21
写真55　調査区北側掘削状況（南より）―21
写真56　①地点人力掘削作業風景（北より）―22
写真57　①地点掘削状況（北より）―22
写真58　②地点掘削状況1（北東より）―22
写真59　②地点掘削状況2（東より）―22
写真60　②地点掘削状況3（東より）―22
写真61　③地点掘削範囲（南東より）―22
写真62　③地点南トレンチ掘削状況（東より）―22
写真63　③地点北トレンチ掘削状況（東より）―22
写真64　①トレンチ作業風景（北東より）―23
写真65　①トレンチ掘削状況（東より）―23
写真66　①トレンチ南壁東端土層断面（北より）―23
写真67　②トレンチ掘削状況（南より）―23
写真68　②トレンチ東壁土層断面（西より）―25
写真69　③トレンチ掘削状況（南より）―25
写真70　③トレンチ北壁土層断面（南より）―25
写真71　移植先駐輪場東側作業風景（北西より）―25
写真72　移植先駐輪場東側掘削状況（西より）―25
写真73　インキュベーションラボラトリー南西側作業風景（西より）―26
写真74　インキュベーションラボラトリー南西側掘削状況（北西より）―26
写真75　1号墓副葬品出土状況（東より）―27
写真76　65号墓人骨検出状況（南より）―27
写真77　21号墓人骨検出状況（北より）―27
写真78　90号墓人骨検出状況（北より）―27
写真79　9号墓骨壺完掘状況（北より）―27
写真80　骨壺群出土状況（北より）―27
写真81　繊維検出状況（西より）―27
写真82　銭出土状況（東より）―27
写真83　囚人札出土状況（南より）―28
写真84　土坑墓群完掘状況（北より）―28
写真85　近世畑址完掘状況（北より）―28

写真86　調査区南壁土層断面（北より）――28
写真87　Ⅰ区②完掘状況（南より）――29
写真88　Ⅰ区③調査完了状況（南より）――29
写真89　Ⅰ区⑤調査完了状況（南より）――29
写真90　Ⅰ区⑥完掘状況（東より）――29
写真91　Ⅰ区⑦完掘状況（西より）――29
写真92　Ⅰ区⑧完掘状況（北西より）――30
写真93　Ⅰ区⑫完掘状況（東より）――30
写真94　Ⅰ区㉓完掘状況（東より）――30
写真95　Ⅰ区㉔完掘状況（南西より）――30
写真96　Ⅰ区㉕完掘状況（西より）――30
写真97　Ⅱ区①発掘作業風景（西より）――31
写真98　Ⅱ区①完掘状況（西より）――31
写真99　Ⅱ区④－２　25号住居址竈検出状況（南より）――31
写真100　Ⅱ区④－４完掘状況（西より）――31
写真101　Ⅱ区⑤掘削状況（西より）――31
写真102　Ⅱ区⑧完掘状況（西より）――31
写真103　Ⅲ区①・②近世溝・土坑検出状況（北西より）――32
写真104　Ⅲ区①古代遺構検出状況（西より）――32
写真105　Ⅲ区①オリーブ褐色砂層土器出土状況（西より）――32
写真106　Ⅲ区②黒褐色砂層土器出土状況（南より）――32
写真107　Ⅲ区③完掘状況（北より）――32
写真108　Ⅲ区⑤完掘状況（北より）――32
写真109　Ⅳ区①人力掘削作業風景（西より）――33
写真110　Ⅳ区①完掘状況（西より）――33
写真111　Ⅳ区②完掘状況（西より）――33
写真112　Ⅳ区③完掘状況（西より）――33
写真113　Ⅳ区③掘削状況（南西より）――33
写真114　Ⅳ区④完掘状況（南より）――33
写真115　Ⅳ区⑤・⑥古代遺構検出状況（東より）――33
写真116　Ⅳ区⑥19号住居址竈周辺遺物出土状況（東より）――33
写真117　Ⅳ区⑧・⑦完掘状況（西より）――34
写真118　Ⅳ区⑧完掘状況（西より）――34
写真119　Ⅴ区①完掘状況（北より）――34
写真120　Ⅴ区③－２石組み溝検出状況（北西より）――34
写真121　Ⅴ区⑤重機掘削作業風景（北より）――35
写真122　Ⅴ区⑥完掘状況（北より）――35
写真123　Ⅴ区⑦完掘状況（南より）――35
写真124　Ⅵ区①掘削状況（東より）――35
写真125　Ⅵ区②掘削状況（東より）――35
写真126　配管部分掘削状況（北より）――36
写真127　㉛地点包含層検出状況（南より）――36
写真128　㉜地点包含層検出状況（西より）――36
写真129　㉜地点掘削状況（南西より）――36
写真130　⑫地点掘削状況（西より）――36
写真131　掘削状況１（北より）――37
写真132　掘削状況２（北より）――37
写真133　①地点樹木抜根作業風景（東より）――37
写真134　①地点掘削状況（東より）――38
写真135　②地点機械基礎粉砕作業風景（東より）――38
写真136　②地点掘削状況（東より）――38
写真137　③地点掘削範囲全景（西より）――38
写真138　③地点庭石撤去作業風景（北より）――38
写真139　③地点掘削状況（西より）――38
写真140　①地点アスファルト舗装部分掘削状況（東より）――38
写真141　③地点縁石他舗装部分掘削状況（東より）――38
写真142　重機掘削作業風景１（東より）――39
写真143　掘削状況１（西より）――39
写真144　掘削状況２（西より）――39
写真145　重機掘削作業風景２（北より）――40
写真146　掘削状況３（北より）――40
写真147　掘削状況４（西より）――40
写真148　掘削状況５（西より）――40
写真149　掘削状況６（西より）――40
写真150　Ａ地点重機掘削作業風景（西より）――40
写真151　Ａ地点近世包含層検出状況（西より）――40
写真152　Ａ地点掘削状況（西より）――40
写真153　掘削範囲近景（東より）――41
写真154　掘削状況１（東より）――41
写真155　掘削状況２（北東より）――41
写真156　掘削状況３（北より）――41
写真157　桝部分掘削状況（南より）――42
写真158　サークルベンチ撤去状況（北東より）――42
写真159　看板撤去状況（南西より）――44
写真160　Ｌ型桝撤去状況（南より）――44
写真161　桝撤去状況（北より）――44
写真162　既設管撤去状況（東より）――44
写真163　擁壁撤去状況１（西より）――44
写真164　擁壁撤去状況２（西より）――44
写真165　Ⅰ調査区掘削前全景（南より）――45
写真166　Ⅰ調査区遺構検出状況（西より）――45
写真167　Ⅰ調査区完掘状況（北より）――45

写真168　3号溝完掘状況（西より）――45
写真169　3号溝・5号住居址土層断面（西より）――45
写真170　6・8・9号住居址完掘状況（西より）――45
写真171　7号溝完掘状況（西より）――46
写真172　7号溝遺物出土状況（北より）――46
写真173　住居址・溝完掘状況（西より）――46
写真174　移植前全景（南西より）――46
写真175　掘削状況（南より）――46
写真176　調査区中央部伐根状況（北より）――47
写真177　伐根状況（南より）――47
写真178　伐根状況（西より）――47
写真179　伐根前状況（西より）――47
写真180　埋設管部分掘削状況（北より）――47
写真181　地山検出状況（西より）――48
写真182　ガス管部分掘削状況（南東より）――48
写真183　既設ハンドホール撤去状況（北より）――48
写真184　水道管部分掘削状況1（南より）――48
写真185　水道管部分掘削状況2（南より）――49
写真186　既設スロープ基礎部分掘削状況（南より）――49
写真187　新設建物部分掘削状況（東より）――49
写真188　ガス管部分掘削状況（南東より）――49
写真189　電気線部分掘削状況（北東より）――50
写真190　作業風景（北西より）――50
写真191　タンク撤去状況（東より）――50
写真192　汚染土壌部分遺構完掘状況1（南より）――51
写真193　汚染土壌部分遺構完掘状況2（南より）――51
写真194　枡部分地山検出状況（西より）――51
写真195　水道管部分掘削状況（西より）――51
写真196　調査前全景（北より）――52
写真197　10号溝検出状況（北西より）――52
写真198　10号溝遺物出土状況（北より）――52
写真199　10号溝獣骨出土状況（東より）――54
写真200　10号溝獣骨出土状況（西より）――54
写真201　11号溝獣骨出土状況（西より）――54
写真202　遺構検出状況（北東より）――54
写真203　溝完掘状況（北より）――54
写真204　10・11・16号溝土層断面（北より）――54
写真205　作業風景（南より）――54
写真206　遺構検出状況（北より）――55
写真207　完掘状況（北東より）――55
写真208　18号住居址硬化面検出状況（南より）――55
写真209　171号住居址硬化面検出状況（北より）――55
写真210　18・171号住居址土層断面（西より）――55
写真211　171号住居址完掘状況（南東より）――55
写真212　174号住居址硬化面検出状況（北より）――56
写真213　175号住居址硬化面検出状況（北より）――56
写真214　217・219号住居址完掘状況（北より）――56
写真215　299号住居址竈土層断面（東より）――56
写真216　電気管部分掘削状況1（南より）――56
写真217　電気管部分掘削状況2（南より）――57
写真218　通信線路部分作業風景（南より）――57
写真219　通信線路部分掘削状況（南西より）――57
写真220　消火配管部分作業風景（東より）――58
写真221　消火配管部分掘削状況（北東より）――58
写真222　A地点作業風景（南より）――58
写真223　A地点掘削状況（北西より）――58
写真224　A地点遺構面検出状況（北東より）――58
写真225　樹木撤去部分作業風景（南東より）――59
写真226　樹木撤去部分掘削状況（北より）――59
写真227　試掘トレンチ2掘削状況（東より）――59
写真228　試掘トレンチ8掘削状況（北西より）――59
写真229　試掘トレンチ11作業風景（南西より）――59
写真230　試掘トレンチ11掘削状況（南東より）――59
写真231　試掘トレンチ18掘削状況（南より）――60
写真232　作業風景（東より）――60
写真233　建物基礎部分掘削状況（南より）――60
写真234　建物基礎部分掘削状況（東より）――61
写真235　作業風景（西より）――62
写真236　掘削状況（南西より）――62
写真237　作業風景（東より）――62
写真238　掘削状況（東より）――62
写真239　作業風景（北西より）――62
写真240　掘削状況（北西より）――63
写真241　作業風景（西より）――63
写真242　掘削状況（北より）――63
写真243　大学院実験研究棟北側作業風景（東より）――63
写真244　大学院実験研究棟北側掘削状況（北より）――64
写真245　放射性同位元素総合研究施設棟南側作業風景（南西より）――64
写真246　放射性同位元素総合研究施設棟南側掘削状況（南より）――64
写真247　作業風景（南より）――64
写真248　掘削状況（南より）――64
写真249　校舎北側作業風景（北より）――65
写真250　遺構面（ローム）検出状況（南より）――65
写真251　外灯基礎掘削作業風景（西より）――65
写真252　外灯基礎部掘削状況（西より）――65
写真253　消火管掘削作業風景（西より）――66
写真254　消火管掘削状況（西より）――66
写真255　体育館西側給水管掘削状況（南より）――66

写真256　体育館西側給水管作業風景（南西より）――66
写真257　体育館南東給水管掘削作業風景（北西より）
――67
写真258　体育館南東給水管試掘状況（北西より）――67
写真259　体育館東側排水管掘削作業風景（南より）―67
写真260　体育館東側排水管掘削状況（南より）――67
写真261　排水管掘削状況１（南より）――――67
写真262　排水管掘削状況２（北より）――――67
写真263　排水管掘削状況３（北より）――――67
写真264　体育館北西側作業風景（西より）――68
写真265　校舎側掘削状況（東より）――――68
写真266　体育館北西側掘削状況（西より）――68
写真267　体育館西側樹木撤去・水飲場掘削状況
（北より）――68
写真268　足洗い場掘削状況（南より）――――68
写真269　屋外階段基礎部作業風景（北より）――68
写真270　屋外階段基礎部掘削状況（北より）――69
写真271　タイヤ撤去作業風景（北より）――――69
写真272　タイヤ撤去状況（北より）――――69
写真273　庇基礎１作業風景（北より）――――69
写真274　庇基礎１掘削状況（西より）――――69
写真275　庇基礎体育館南側掘削状況（南東より）――69
写真276　小学校側掘削前状況（北より）――――70
写真277　撤去状況（西より）――――70
写真278　中学校側掘削前状況（南より）――――70
写真279　撤去状況（南より）――――70
写真280　小学校側作業風景（北東より）――――70
写真281　小学校側掘削状況（東より）――――71
写真282　中学校側作業風景（北東より）――――71
写真283　中学校側北側トレンチ掘削状況（東より）―71
写真284　作業風景（北西より）――――71
写真285　掘削状況（北より）――――71
写真286　建物基礎部分掘削状況１（東より）――72
写真287　建物基礎部分掘削状況２（東より）――72
写真288　建物基礎部分掘削状況３（東より）――72
写真289　電気管部分掘削状況（東より）――――72
写真290　水道管部分掘削状況（南より）――――73
写真291　ガス管部分掘削状況（北より）――――73
写真292　③地点掘削状況（南より）――――73
写真293　⑤地点掘削状況（東より）――――73

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――1
表２　2013年度調査一覧――――――――3

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は，表２のとおり，発掘調査11件，立会調査62件を実施した．発掘調査はいずれも立会調査から切り替えたものである．

本年度実施した発掘調査は，黒髪北地区における附属図書館の改修工事に伴い，機械設備関連工事に伴う発掘調査（1301・1302・1303・1306調査地点），黒髪南地区における国際革新技術研究拠点施設新営工事に伴う発掘調査（1309調査地点），ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点），本荘北地区における環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水関係）に伴う発掘調査（1321調査地点），基幹整備（電気設備）工事に伴う発掘調査（1325調査地点），設備管理等ボイラー設置等工事（重油地下タンク更新・汚染土壌撤去）に伴う発掘調査（1333調査地点），本荘中地区における基幹整備（自家発電設備）工事（地下タンク）（発電気設備）（埋設配管）に伴う発掘調査（1317・1318・1319調査地点），京町地区における教育学附属小学校体育館改修その他工事に伴う発掘調査（1342調査地点）である．

本年度は，既往の調査事例に照らすと例年になく規模が大きな発掘調査件数が多く，また立会調査も１件の事業規模が大きく，立会期間が数日～数週間を要する案件が多かった．

黒髪南地区の国際革新技術研究拠点施設新営その他工事（1309調査地点）では，120余基の近・現代墓が検出された．熊本刑務所の受刑者の埋葬地である．2003年に，初めて熊本刑務所の受刑者の埋葬地を確認しており（0203調査地点），今回の調査区はその南側に隣接する．2003年の調査は，途中で専門業者による改葬に切り替えたが，今回検出した人骨は土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏（名誉館長），NPO法人人類学研究機構の松下真実氏の協力を得て，形質人類学の資料として活用することとなった．本調査地点では，2003年の調査時には出土・回収されなかった黒髪村当時の村民の墓と考えられる遺物も出土・回収した．近世～近代の生活の一端を示す資料である．人骨は人類学研究機構にて保管されている．

ライフライン再生工事に伴う発掘調査（1310調査地点）は，狭長で遺構の全容が把握しづらい調査ではあるが，南地区東半の広範囲におよぶトレンチ調査となるため，土層の堆積状況，遷移などを把握する絶好の機会と

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪北地区（教育学部附属養護学校）	熊本市黒髪２丁目40-1 熊本市黒髪５丁目17-1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市黒髪２丁目39-1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市城東5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240-1	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	合津マリンステーション	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（医学部）	熊本市本荘２丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本市本荘１丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科）	熊本市九品寺４丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	薬学部	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区	熊本市渡鹿４丁目1-1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（職員宿舎）	熊本市黒髪7丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図1　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

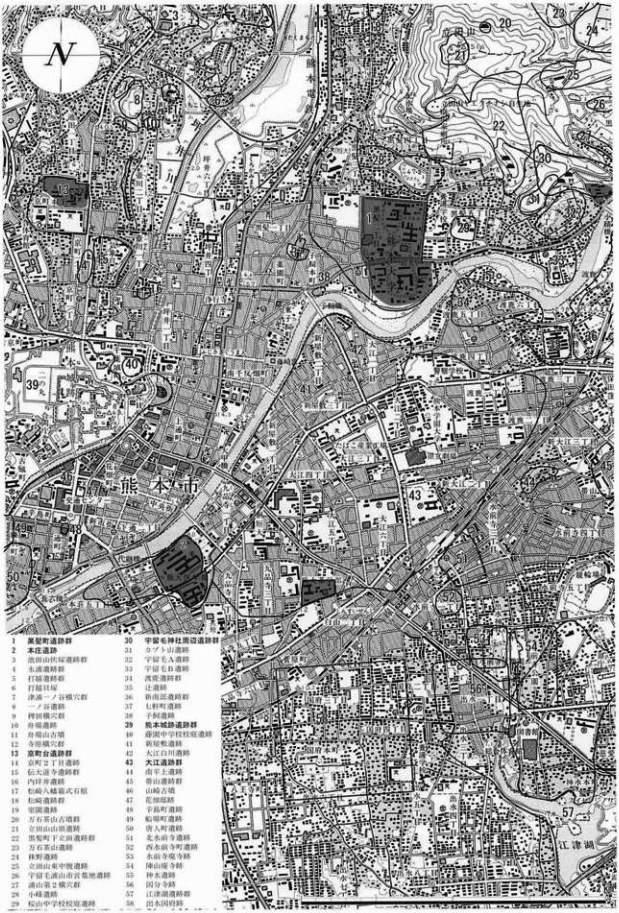


表2　2013年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
13・5・21～7・27	1301	（黒曜北）附属図書館中央館樹木伐採工事	立会調査	298.00㎡	なし	なし
13・5・21～7・10	1302	（黒曜北）附属図書館中央館改修機械設備工事	立会調査／発掘調査	395.00㎡	古代	住居・柱穴、土師器・須恵器
13・5・21～6・12	1303	（黒曜北）附属図書館中央館改修電気設備工事	立会調査	97.00㎡	なし	なし
13・5・25,31	1304	（黒曜北）五高記念館前漏水補修工事	立会調査	0.45㎡	なし	なし
13・6・17,21,25	1305	（黒曜南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障樹木移植等工事	立会調査	127.60㎡	なし	なし
13・6・18～7・12	1306	（黒曜北）附属図書館中央館外構工事	立会調査／発掘調査	1368.00㎡	古代	溝
13・7・19	1307	（黒曜南）事務局本館西側側溝補修工事	立会調査	4.10㎡	なし	なし
13・7・19	1308	（大江北）薬学部倉庫1とりこわし工事	立会調査	47.03㎡	なし	なし
13・8・8～10・7	1309	（黒曜南）国際革新技術研究拠点施設新営その他工事	立会調査／発掘調査	632.00㎡	近現代	墓・現代遺物
13・8・6～継続中	1310	（黒曜南）ライフライン再生（給水設備等）工事	立会調査／発掘調査	5275.60㎡	近世・古代・縄文	住居・柱穴・溝、陶磁器・土師器・須恵器・鉄器・縄文土器・石器
13・9・24～10・4	1311	（黒曜南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障配管替工事	立会調査	101.00㎡	なし	なし
13・10・11	1312	（黒曜北）知命堂給水管漏水補修工事	立会調査	0.815㎡	なし	なし
13・9・13	1313	（黒曜北）テニスコート改修工事	立会調査	6.48㎡	なし	なし
13・9・2	1314	（黒曜北）知命堂改修工事	立会調査	41.45㎡	なし	なし
13・9・12～14・3・14	1315	（黒曜北・黒曜南）都市計画事業　中部及び東部処理区雨水吐貯留管（C-3,E-4）築造工事	立会調査	5.60㎡	近世・近代	陶磁器
13・10・28	1316	（医病）中央診療棟東側汚水桝蓋取設工事	立会調査	0.50㎡	なし	なし
13・11・1～12・18	1317	（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（地下タンク）	立会調査／発掘調査	100.10㎡	古代	住居・溝・柱穴、土師器・須恵器
13・11・1～12・18	1318	（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（発電機設備）	立会調査／発掘調査	236.40㎡	古代	住居・溝・柱穴、土師器・須恵器
13・11・1～12・18	1319	（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（埋設配管）	立会調査／発掘調査	155.90㎡	古代	住居・溝・柱穴、土師器・須恵器
13・11・20	1320	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（舗装・構造物関係）	立会調査	3309.80㎡	なし	なし
13・11・15～継続中	1321	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）	立会調査／発掘調査	989.50㎡	古代	住居・溝・柱穴・土坑
13・11・15～継続中	1322	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）	立会調査	73.00㎡	なし	なし
13・11・23	1323	（医病）作業室改修機械設備工事	立会調査	3.75㎡	なし	なし
13・11・19	1324	（医病）設備管理棟ボイラー設備等工事（配管工事）	立会調査	17.70㎡	なし	なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
13・11・20～継続中	１３２５	（医病）基幹整備（電気設備）工事	立会調査／発掘調査	468.10㎡	古代	柱穴、土師器
13・11・21～22	１３２６	（医病）旧電話交換室改修機械設備工事	立会調査	13.78㎡	なし	なし
13・11・21～22	１３２７	（医病）旧電話交換室改修工事	立会調査	36.40㎡	なし	なし
13・11・25～26	１３２８	（医病）看護師宿舎屋外ガス配管改修工事	立会調査	30.50㎡	なし	なし
13・11・29	１３２９	（本荘北）駐車場ゲートインターホン修設工事	立会調査	22.60㎡	なし	なし
13・11・28～14・2・7	１３３０	（城東町）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事	立会調査	208.49㎡	なし	なし
13・12・9～14・1・14	１３３１	（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事	立会調査	83.51㎡	なし	なし
13・12・9、14・2・25	１３３２	（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事	立会調査	75.26㎡	なし	陶磁器
14・1・17～2・12	１３３３	（医病）設備管理棟ボイラー設置等工事（重油地下タンク更新・汚染土壌除去）	立会調査／発掘調査	101.56㎡	古代	柱穴、土師器・須恵器
14・1・21	１３３４	（黒髪北・黒髪南）交通安全施設更新工事	立会調査	1.28㎡	近現代	陶磁器
14・1・31	１３３５	（大江北）ＰＨＳ更改工事	立会調査	0.64㎡	なし	なし
14・2・5	１３３６	（城東）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事（機械設備工事）	立会調査	529.10㎡	なし	なし
14・2・10	１３３７	（医病）外来診療棟新営機械設備工事	立会調査	10.62㎡	なし	なし
14・2・17	１３３８	（黒髪北）全学教育棟（Ｃ棟）スロープ取設工事	立会調査	57.68㎡	なし	なし
14・2・17～26	１３３９	（黒髪北・黒髪南）屋外サイン設置工事	立会調査	196.00㎡	なし	なし
14・2・28	１３４０	（黒髪北）黒髪北倉庫Ａ（旧外国人宿舎）改修工事	立会調査	39.30㎡	なし	なし
14・2・21	１３４１	（京町）教育学部附属中学校門扉改修工事	立会調査	20.00㎡	なし	なし
14・2・25、3・13～17	１３４２	（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事	立会調査／発掘調査	48.70㎡	なし	なし
14・3・12～25	１３４３	（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事（機械設備工事）	立会調査	588.00㎡	なし	なし
14・2・24、3・10～13	１３４４	（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事	立会調査	702.90㎡	なし	なし
14・2・23～3・12	１３４５	（本荘中他）基幹整備（給水設備等）工事（本荘中地区分）	立会調査	909.00㎡	近世	陶磁器・古銭
14・3・6～3・17	１３４６	（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修工事	立会調査	29.45㎡	なし	なし
14・3・6	１３４７	（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修工事	立会調査	132.90㎡	なし	なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
14・2・27	1348	(黒髪南) 総合研究棟（工学系）改修電気設備工事	立会調査	48.76㎡	なし	なし
14・2・27～3・17	1349	(黒髪南) 総合研究棟（工学系）改修機械設備工事	立会調査	365.00㎡	近世・近代	陶磁器・瓦・泥面子
14・2・28	1350	(京町) 支障樹木撤去	立会調査	57.40㎡	なし	なし
14・3・10	1351	(京町) 備蓄倉庫新設	立会調査	141.00㎡	なし	なし
14・2・28	1352	(城東) 教育学部附属幼稚園ブロック塀改修工事	立会調査	272.00㎡	なし	なし
14・3・6	1354	(黒髪北) 黒髪北倉庫A改修機械設備工事	立会調査	0.60㎡	なし	なし
14・3・6	1355	(黒髪北) 備蓄倉庫新設	立会調査	52.50㎡	なし	なし
14・3・7	1356	(大江北) 薬学部北門入口胸像設置工事	立会調査	4.00㎡	なし	なし
14・3・7	1357	(大江北) 備蓄倉庫新設	立会調査	24.50㎡	なし	なし
14・3・7	1358	(大江北) 支障樹木撤去	立会調査	18.80㎡	なし	なし
14・3・22	1359	(黒髪北) 仮設駐車場敷設工事	立会調査	427.00㎡	なし	なし
14・3・19	1360	(黒髪北) 重要文化財五高記念館耐震診断業務	立会調査	20.40㎡	近代	陶磁器・瓦
14・3・19,20	1361	(黒髪南) 重要文化財工学部研究資料館耐震診断業務	立会調査	4.00㎡	近代	陶磁器
14・3・27	1362	(京町) 教育学部附属中学校卒業記念時計台設置工事	立会調査	4.00㎡	なし	なし
14・3・28	1363	(黒髪南他) 都市ガスメーター取替工事	立会調査	22.00㎡	なし	なし

なった．調査は継続中で，次年度も継続しておこなう予定である．

本年度の調査範囲のいずれの箇所においても，古代の遺物包含層および遺構を確認することができた．古代の集落が一帯に広がっていることが，改めて確認できた．また，従来，調査対象外としていた土層の下位から縄文時代後期前葉の土器が多量に出土したことは大きな成果である．今後，既往の調査においては確認していない文化層の発見や，これまで確認されていない縄文時代の遺構の発見につながる可能性がある．また，これまで確認をおこなっていない深度まで，今後は工事の状況に応じて確認する必要が出て来た．調査期間・予算等の調査計画の立案の際に留意しなければならない事項である．

本荘北地区における環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水関係）に伴う発掘調査（1321調査地点）では，敷地内を流れる暗渠の脇を掘削した．暗渠の岸の際まで，古代の遺構が残されていることが確認できた．既往の調査成果と照らしわせてみると，暗渠の沿岸でも，遺構が残っている箇所と砂地や撹乱等で残されていない箇所があることがわかった．暗渠やその前身の流路の変遷に関ると推定される．暗渠の沿岸は，遺構が残されていないと考えられてきたが，再考・留意が必要であることが判明した．本件は次年度も継続して調査をおこなう予定である．

本荘中地区における基幹整備（自家発電設備）工事（地下タンク）（発電気設備）（埋設配管）に伴う発掘調査（1317・1318・1319調査地点）では，多数の古代の住居址と溝が検出された．本調査区の西側に位置する9801調査地点において古代の集落を確認していたが，今回の調査成果から，この集落がおそらく敷地の東側一杯にまでひろがるであろうと予想できる．

このほか，京町地区の附属小学校体育館改修工事では，既往の調査が少なかった敷地の北東側を広範囲に掘削し，遺構面が北東隅から南西に傾斜していること，比較的浅い掘削で検出されること，遺構面の遺存状態は良好だが遺構密度は低い，などの知見を得ることができた．

本年度は，各キャンパスにおいて新たな調査成果が得られ，また，今後新しい知見を得ることが期待でき，こ

れまでになく多くの収穫を得た年度であった．これらの成果は，さきにのべたように今後の調査計画の立案の際には考慮しなければならない，新しい要素が含まれている．これらを念頭に調査に臨みたい．

一方で，事業量・発掘調査と調査員数の不均衡が大きく，事業調整は非常に難航した．事業の集中もあり，年度末には１名の調査員が数十件の調査をこなさねばならず，加えて調査成果の整理等も重なり，調査員には多大な負荷があった．本学の再開発事業が円滑に遂行できるよう，また，発掘調査の実施と報告書作成という義務が，余裕をもって果たせるような調査体制の整備が求められる．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－1　黒髪北地区　（図2・3参照）

1.（黒髪北）附属図書館中央館樹木伐採工事に伴う立会調査（1301）

＜調査期間＞

2013年5月21日～6月6日

＜調査面積＞

289㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田亮.

＜調査概要・結果＞

附属図書館の東側・北側・西側に植栽されている樹木の撤去をおこなった．樹木はあらかじめ，地上部分は伐採し，根を残した状態から立会調査を実施した．

潅木や幹の直径が10cm未満の小さい木は重機で漉き取るように0.2mほどの深さでまとめて除去した．直径が10cmを超える樹木は，1本ずつ抜根の立会をおこなった．いずれも埋土内で収まり，包含層・遺構面に達することは無かった．出土遺物もない．

写真1　樹木伐根作業風景（サルスベリ）（南から）

写真2　樹木伐根掘削状況（サルスベリ）（南から）

写真3　樹木伐根作業風景（ナギ）（南から）

写真4　樹木伐根状況（ナギ）（南から）

写真5　樹木伐根状況（潅木）（西から）

図2　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

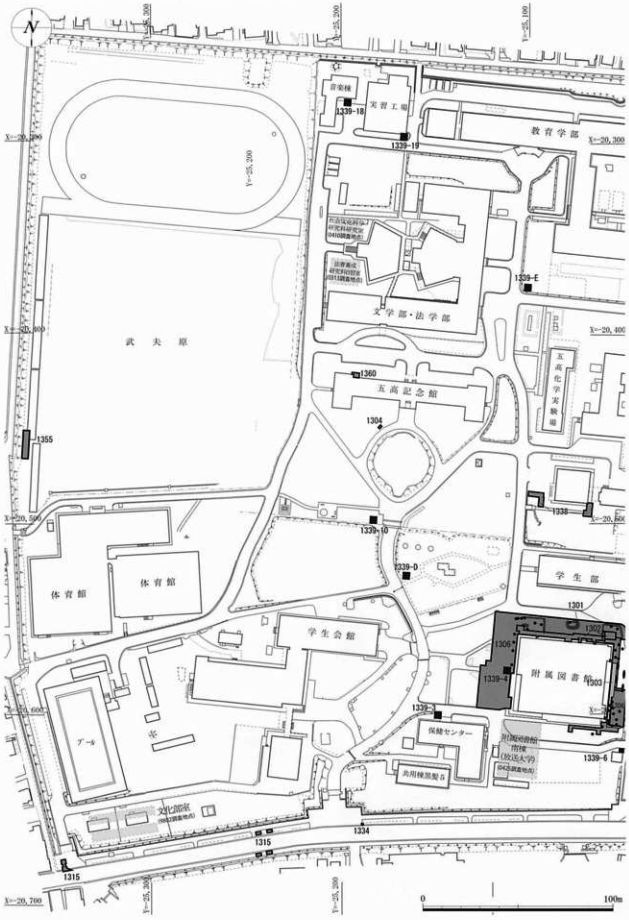
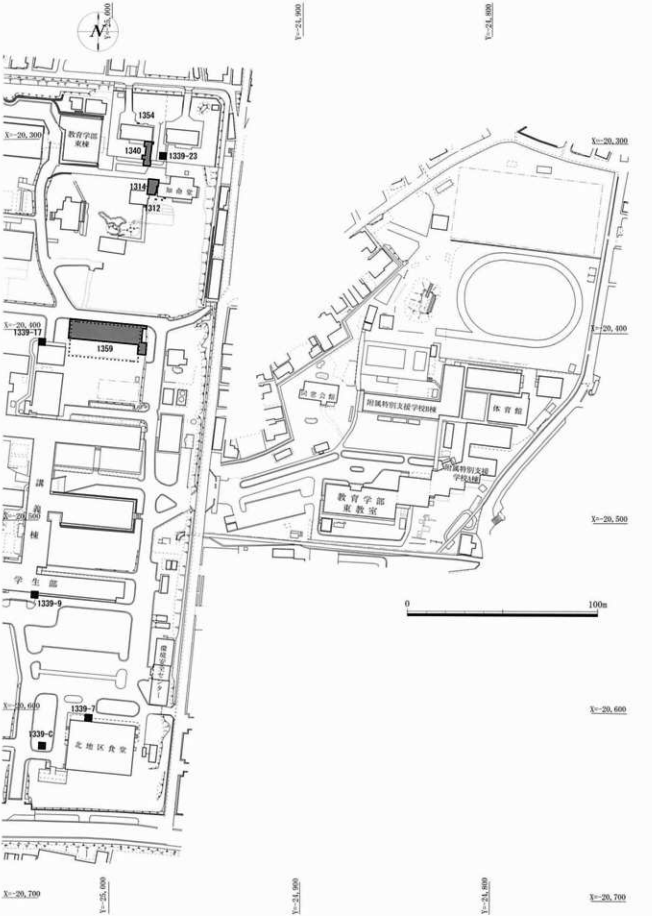


図3　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）



2．（黒髪北）附属図書館中央館改修機械設備工事に伴う立会調査（1302）

＜調査期間＞

2013年５月21日～7月10日

＜調査面積＞

395㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田　亮．

＜調査概要＞

工事の主体は，ガス管・排水管の撤去・新設およびオイルタンク除去である．図書館の外周に沿って施工するため，数度に分けて立会をおこなった．

図書館北面東側に位置するオイルタンク撤去の際，図書館より北側に6.3m，深度1.5mの地点において，幅0.4mほど地山面が検出されている．遺物包含層および遺構は確認されず，工事による埋蔵文化財への影響がないと判断し，慎重に作業するように指示した．

写真６　オイルタンク撤去前近景（東から）

写真７　オイルタンク周辺掘削状況（東から）

また，図書館北面西端部のガス管新設に伴う掘削において，既往ガス管の両側に包含層が残存していた．ガス管設置によって破損される南側の部分のみを調査したが，遺構・遺物は検出されなかった．北側の部分は，保存の措置を取った．

写真８　北面西端部西側ガス管掘削包含層完掘状況（東より）

写真９　住居址及び柱穴完掘状況（北より）

写真10　土坑内遺物出土状況（西より）

図書館東南部の既設管撤去の際に，管の両脇から遺物包含層が検出された．そのため，熊本市文化振興課に許可をとり，発掘調査に切り替えた．住居址１軒・柱穴１基・土坑１基が検出されている．

１号住居址は既設ヒューム管によって大部分を削平されており，南東の角がわずかに残存しているにすぎなかった．１号住居址の西側には２号柱穴が隣接する．硬化面は検出されず，住居址内部および柱穴から出土遺物も確認されなかった．

３．（黒髪北）附属図書館中央館改修電気設備工事に伴う立会調査（1303）

＜調査期間＞

2013年５月21日～６月12日

＜調査面積＞

41㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

屋外へ電力線路をつなぐ工事である．図書館東面の石垣に沿って，幅約1.0m，深さ0.3～0.5mで掘削した．いずれも図書館の掘り方で収まっており，遺物包含層及び遺構面は検出されなかった．

写真11　電気設備部分掘削状況（南より）

４．（黒髪北）五高記念館前漏水補修工事に伴う立会調査（1304）

＜調査期間＞

2013年５月31日

＜調査面積＞

0.35㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田亮．

＜調査概要・結果＞

五高記念館前の水道管の水漏れに伴う緊急工事である．掘削は0.5×0.7m，地表下0.4mまで掘削した．補修工事は，既設管の掘り方内で実施できた．掘削深度も浅かったため，遺物包含層及び遺構面は検出されなかった．

補修作業は同じ地点で２度おこなわれたが，いずれも上記の条件，結果である．

写真12　水道管検出状況（西より）

５．（黒髪北）附属図書館中央館外構工事に伴う立会調査（1306）

＜調査期間＞

2013年６月18日～７月12日

＜調査面積＞

1,368㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田亮．

＜調査概要・結果＞

工事の主体は，附属図書館東側の室外機置き場設置，北側・西側スロープの撤去・新設，西側入り口付近の銅像移設である．調査地点が1301・1302調査地点と隣接するため，並行して立会調査をおこなった．北側スロープ新営・西側スロープの基礎撤去およびスロープ新営・西側入口付近の銅像移設工事に伴って掘削をおこなったが，いずれの地点も現代の埋土内で収まった．

室外機置き場設置に伴う掘削においては，図書館周囲に巡っている石垣から東に約７mの地点より東側に，深さ0.6m程度，幅１m程で包含層が良好に残存していた．精査の結果，溝跡の一部とピット７基が確認されたため，熊本市文化振興課の許可を得て発掘調査に切り替えた．ピット群から遺物の出土はなく，柱痕も確認できなかった．

写真13　ピット完掘状況（南より）

写真14　溝完掘状況（西より）

写真15　溝土層断面（西より）

溝は調査区の南端に位置する．図書館の掘り方によってかなりの部分を削平されている．溝は東西に走っており，底面が西側から東側に向かって傾斜していた．須恵器・土師器の小片が出土しており，古代の溝であると考えられる．

6．（黒髪北）事務局本館西側側溝補修工事に伴う立会調査（1307）

＜調査期間＞

2013年７月19日

＜調査面積＞

4.1㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

事務局本館西側にある，緑地帯と道路を分ける縁石の補修工事である．事務局本館西口前の２か所と，建物西側緑地帯の南端の１か所，合計３か所で立会工事をおこなった．

西口通路の北側コーナーでは，古い縁石を撤去するとその下にはコンクリートが張ってあり，このまま新しい縁石を設置することになった．埋土内であり，埋蔵文化財への影響はない．

南側コーナーでは，やはり古い縁石の下からコンクリートが検出された．深さ的に支障となる範囲（東半分程度）のみ，コンクリートを撤去し地表下0.24mまで掘削した．埋土内であり，埋蔵文化財への影響はない．

緑地帯南側でも同様に，縁石の下から，コンクリートが検出された．東側１／３の範囲は，コンクリートを撤去し地表下0.2mまで掘削した．埋土内であり，埋蔵文化財への影響はない．

３か所ともに，これ以上の掘削はおこなわないことを確認して立会調査を終えた．

写真16　事務局本館西口北側作業風景（北西より）

写真17　事務局本館西口北側掘削状況（北西より）

写真18　事務局本館西口北側掘削状況（西より）

写真19　事務局本館西側緑地帯南端部掘削状況（北西より）

7．（黒髪北）知命堂屋外漏水補修工事に伴う立会調査（1312）

＜調査期間＞

2013年10月11日

＜調査面積＞

7.68㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

知命堂の水道管の水漏れに伴う緊急工事である．水道管は地表下0.4m程度で検出され，掘削深度は最大で0.5mであった．包含層の検出はなく，遺構・遺物も認められなかった．

写真20　水道管検出状況（南より）

8．（黒髪北）テニスコート改修工事に伴う立会調（1313）

＜調査期間＞

2013年９月13日

＜調査面積＞

41.45（1.59）㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

テニスコートの支柱を撤去する工事のための立会調査である．重機で引き抜こうしたしたが不可能だったため，一側面を掘削して倒すことにした．

北側の支柱は東側1.2×0.8mを掘削した．地表下0.42mで遺物包含層を検出した．遺構は検出されなかったため，地表下0.68mまで掘削した．まだ，包含層中であった．支柱はゆっくりと東側に倒し，その後重機で引き上げた．埋蔵文化財への影響はなかった．

写真21　北側支柱撤去作業風景（東より）

写真22　北側支柱トレンチ東壁土層（西より）

南側の支柱も同様に西側を0.9×0.7m掘削した．地表下0.45mで遺物包含層を検出した．これ以上掘削せずとも，支柱を傾け抜き取ることができた．埋蔵文化財への影響ない．

遺物包含層は今回確認した分でも約0.3mの厚さがあり，遺存状況が非常に良いことが判明した．また，上下二層に分層可能である．

9．（黒髪北）知命堂改修工事に伴う立会調査（1314）

＜調査期間＞

2013年９月２日

＜調査面積＞

3.7㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

知命堂の西側にスロープを設置する工事である．スロープ基礎部分の掘削が最も深くなるため，基礎部を中心に3.1×1.2mのトレンチを設定して掘削をおこなった．

地表下0.5mまで掘削したが，埋土内で収まり包含層

写真23　作業風景（北より）

写真24　掘削状況（西より）

や遺構面に達することはなかった．出土遺物もない．その他の掘削は慎重におこなうよう指示して，立会調査を終えた．

10．（黒髪北・黒髪南）都市計画事業　中部及び東部処理区雨水吐貯留管（C-3，E-4）築造工事に伴う立会調査（1315）

＜調査期間＞

2013年９月12日，11月25日，３月14日

＜調査面積＞

10.2㎡

＜調査員＞

大坪志子・山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区歩道沿いの，貯留タンク設置部および配管部において工事立会をおこなった．工事が夜間のみ施工可能なため，トレンチを２箇所設定し，試掘をおこなった（①地点）．西側のトレンチでは，１×１mの範囲を人力で掘削した．地表下1.23mでNTTの埋設管が検出され，掘削範囲はこの配管掘り方であることが判明した．施工の深さはこれと同等であるため，埋蔵文化財には影響ないと判断した．

東側のトレンチは，貯留タンク設置部分の試掘を目的に設定した．1×0.8mの範囲では，南側でNTTのケーブルが検出された．貯留槽は深くなるため，管の北側を更に掘削した．すると管上より0.34m下で，基盤の層となるバミスを多量に含む細粒の砂礫層が検出された．北側半分は更に掘削されていた．文化層は全て破壊されていることが確認されたため，施工の最に埋蔵文化財の影響はないと判断した．

11月25日には，先の調査区から道路を挟んで北側，黒髪北地区歩道に西および東トレンチの2箇所を設定し，立会を行った（②地点）．西トレンチでは1.3×0.9mの範

囲を人力で掘削した．南側が排水溝の側溝によって，北側が下水管の掘方によって撹乱されており，地表面から1.7m下まで全て現代埋土であった．地表下1.7mから下には黄褐色の地山らしき土層が確認できたが，この直上にも近代の陶磁器が混じる．また，東トレンチも西トレンチと同様，排水溝の掘方により撹乱されており，地表下1.2mまで全て現代埋土であった．そのため文化層は全て破壊されていると判断した．

また，3月14日に黒髪北地区南西隅の歩道において立会調査を実施している（③地点）．南北2箇所にトレンチを設定し，重機による掘削をおこなった．南トレンチは面積約3.8㎡の台形状を呈する．西側に地表下0.5mで既設の金属製配管が二本確認でき，重機掘削に支障があったため，東側に調査区を拡張した．幅0.7mで南西側のみ深堀したところ地表下1.4mで褐色地山に達した．それより上位は全て現代埋土で，埋土中から近代らしき陶磁器片が1点出土した．また，北トレンチは約1.1×2.2mの長方形の試掘坑である．地表下0.75mで西側にヒューム管が検出され，重機掘削に支障が出た．そこで，調査区東側のみを掘り下げ，地表下1.35mで地山を検出した．それより上位は全て現代埋土であり，埋蔵文化財に影響はないと判断した．

写真25　①地点西トレンチ作業風景（東より）

写真26　①地点西トレンチ掘削状況（東より）

写真27　①地点東トレンチ掘削状況（東より）

写真28　②地点西トレンチ掘削状況（東より）

写真29　②地点東トレンチ掘削状況（東より）

写真30　③地点南トレンチ掘削状況（北より）

写真31　③地点北トレンチ掘削状況（西より）

11.（黒髪北・黒髪南）交通安全施設更新工事に伴う立会調査（1334）

＜調査期間＞

2014年1月21日

＜調査面積＞

2.35㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎，

岡本真也，廣田静学，國武真紀子，三好栄太郎，

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区と南地区をつなぐ赤門前の横断歩道の既設信号柱更新に伴う工事である．当センターと熊本県文化課，熊本市文化振興課の三者で立会を実施した．黒髪北地区側歩道上の東トレンチと黒髪南地区側歩道上の西トレンチの2か所の掘削をおこなっている．東トレンチでは当初0.8×0.8mの調査区を設けたが，既設電柱のコンクリート基礎を避けるため，北側にやや拡張し，最終的に0.9×1.5mの調査区となった．地表下1.65mまで重機掘削を行った結果，既設電柱と北側の大型土管敷設時の埋土中に収まり，全て撹乱を受けていた．下部は柱を設置のために円形に掘削している．遺構は検出されなかったが，現代埋土中より陶磁器を数点採集している．

写真32　東トレンチ作業風景（北東より）

西トレンチは1×1mの調査区で，地表下1.25～1.45mでNTTのケーブル4本が検出されたため，調査区を北側に0.2m拡張した．そして，北端中央にケーブルを避けるようにして円形の深掘を地表下1.6mまでおこなった．全て排水溝などによる現代埋土で，遺物・遺構は確認できず，文化層への影響はなかった．

写真33　東トレンチ掘削状況（西より）

写真34　西トレンチ作業風景（西より）

写真35　西トレンチ掘削状況（南より）

12.（黒髪北）全学教育棟（C棟）スロープ取設工事に伴う立会調査（1338）

＜調査期間＞

2014年2月17日

＜調査面積＞
57.68㎡
＜調査員＞
柴田　亮.
＜調査概要・結果＞
工事の主体は，スロープの新設及びアスファルト舗装である．設置個所は，全学教育棟（C棟）の東側と西側の2か所である．最も深くなるのは基礎設置部分あり，0.41m程度であった．すべて現代の埋土であり，埋蔵文化財への影響は低いと考えられたため，慎重に工事をおこなうよう指示し，立会を終了した．

写真36　スロープ基礎設置部分掘削状況（南より）

13.（黒髪北・黒髪南）屋外サイン設置工事に伴う立会調査（1339）

＜調査期間＞
2014年2月17日～26日
＜調査面積＞
196㎡
＜調査員＞
柴田　亮.
＜調査概要・結果＞
黒髪北・南地区内に，複数のサインを設置する工事である．サインの基礎設置に係る掘削であり，掘削深度は最も深いところで0.55mであった．掘削は全64箇所に及ぶものの，ほとんどが現代の埋土で収まっていた．遺物包含層が検出されたのは黒髪北地区で4箇所，南地区で2箇所であった．

北地区は，⑩，⑲，⑳，C地点において遺物包含層が検出された．⑩地点は，アスファルトの直下に石材の建物基礎があった．それを外したのち，地表下0.3m前後のところで遺物包含層が検出された．精査ののち，地表下0.55mまで慎重に掘り下げたが，遺構の検出はなく，土師器の小片がわずかに出土したのみであった．⑲地点では地表下0.45mのところで，幅0.3m程で遺物包含層が検出された．0.1m程慎重に掘り下げたが，遺構はなく土師器片が少数出土したのみであった．⑳地点では，地表下0.35m付近で，包含層が検出された．北側0.25m程度は，コンクリート基礎によって破壊されており，残存箇所を0.2m程度掘り下げた．遺構・遺物の検出はなかった．C地点の工事は，既存の看板を撤去した後，同地点にサインを設置するものである．掘削地点は盛土がなされていたため，地表下0.4m程の掘削となった．表土を剥ぐと，赤色粒が多く混じる，固くしまった暗黒色土層が検出された．黒色土層は0.3m程度堆積しており，土師器片などが検出されたたが，層中より近世陶器や近代陶器管とみられるものも検出されたことから，近世・近代頃の耕作土層と判断した．その下部に地山が検出され，精査の結果，ピットが1基残存していた．遺構検出面が施工に問題ない深さであったため，現状保存の措置を取り，掘削を終了した．

写真37　⑩地点包含層掘削状況（南より）

写真38　⑲地点包含層掘削状況（南より）

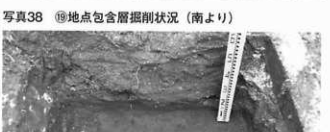


写真39　⑳地点包含層掘削状況（南より）

写真40　N-C地点遺構検出状況（東より）

写真41　E地点掘削状況（西より）

写真42　③地点掘削状況（北より）

写真43　④地点掘削状況（西より）

写真44　㉓地点作業風景（西より）

14.（黒髪北）黒髪北倉庫A（旧外国人宿舎）改修工事に伴う立会調査（1340）

＜調査期間＞

2014年2月18日

＜調査面積＞

39.30㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

写真45　スロープ基礎部分掘削状況（南より）

写真46　人力掘削作業風景（北西より）

写真47　掘削状況（北より）

＜調査概要・結果＞

工事の主体はスロープ新設に伴う，抜根および掘削である．スロープ基礎設置に係る掘削の前に，掘削範囲にあるマキを３本伐根した．それぞれ0.35～0.7m程の掘削であったが，埋土内であった．その後のスロープ基礎に係る掘削は，深さ0.5m程であり，埋土内であった．調査区内のコンクリート基礎は，すべて撤去せず必要な深さまで破壊することで対応した．埋蔵文化財に影響はないと考えられたため，慎重に工事するよう指示して，立会調査を終了した．

15.（黒髪北）黒髪北倉庫Ａ改修機械設備工事に伴う立会調査（1354）

＜調査期間＞

2014年３月６日

＜調査面積＞

1.35m

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪北倉庫Ａの埋設給水配管設置工事に伴う立会調査を実施した．

建物内から出ている給水管の位置を確認するための掘削で，当初は0.6×1.0mの調査区を設定したが，目的とする配管が見つからず，西へ0.5m程拡張した．地表下0.15m程で大小３つの金属製配管が検出され，北側へ配管が続くと推測したため，さらに北へ0.6m拡張したが確認できなかった．最終的に配管まわりを地表下0.5m下げたところで，目的の配管構造を確認することができ，掘削を終えた．掘削は配管や南側の側溝の掘り方埋土に収まっており，遺物や遺構は検出されておらず，文化層への影響もなかった．

16.（黒髪北）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1355）

＜調査期間＞

2014年３月６日

＜調査面積＞

52.5㎡（8.91㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区ラグビー場南西の備蓄倉庫新設にかかわる立会調査を実施した．

15×3.5mの掘削予定範囲に北と南，そして中央の３か所へ，東西方向に長い3.3×0.9mの試掘用トレンチを設定，掘削した．現地は南に緩やかに傾斜しているため，北トレンチで地表下0.6m，南トレンチでは0.45mで掘削深度に到達した．最も深い北トレンチでも地表下0.6mで近代瓦や鉄クズが出土しており，埋蔵文化財には影響がないことが確認できた．掘削範囲全体が撹乱埋土であると判断し，地表下0.6m以上の掘削をおこなわないことを指示し，立会調査を終了した．

写真48　掘削範囲遠景（南より）

写真49　北トレンチ掘削状況（東より）

写真50　中央トレンチ掘削状況（東より）

写真51　南トレンチ掘削状況（東より）

17.（黒髪北）仮設駐車場取設工事に伴う立会調査（1359）

＜調査期間＞

2014年３月17日～３月21日

＜調査面積＞

427㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の旧テニスコートへの仮設駐車場設置のためのフェンス基礎撤去や表土掘削などに係る立会調査を実施した.

フェンス基礎は56本あり，全て掘方底面が地表下0.7m程であったが，クレーンにより上位から抜き取りをおこなうことで，掘削の必要は生じなかった．確認のため，抜き取り後の土層断面を確認したが，全て腐葉土と礫混じりの掘り方埋土であった．また，調査区北側を車の出入り口のために地表下0.25m程南に向けて傾斜するよう掘削をおこなった．範囲が広いため，東西と中央の３か所を試掘したが，現代クラッシャーの上面までしか到達しなかった．また，テニスコート東側の石垣の撤去とその周囲を東側0.3m程西側に向かって傾斜するよう掘削し

写真52　フェンス基礎抜取作業風景（東より）

写真53　フェンス基礎掘削状況（西より）

写真54　重機掘削作業風景（北東より）

写真55　調査区北側掘削状況（南より）

たが，こちらも現代クラッシャーの表面を削るに留まった．いずれも遺物や遺構は検出されず，文化層への影響はないため，慎重に工事を進めるよう指示し，立会を終了した．

18.（黒髪北）重要文化財五高記念館他耐震診断業務に伴う立会調査（1360）

＜調査期間＞

2014年３月17日～19日

＜調査面積＞

20.4㎡（6.02㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の表門（通称赤門），五高記念館，化学実験棟の耐震診断と基礎構造の把握のため立会調査を実施した．各建造物は重要文化財に指定されており，埋文担当者が終始立会い，いずれも人力によって慎重に掘削を行った．

表門の立会（①地点）では，当初，北壁西側で0.9×0.9mの調査区を設定して掘り下げたが，表門コーナー部の構造把握も必要としたため，東へ0.2×0.4mの拡張区を設けた．この調査区北側では地表下0.36mまでは現代埋土で，その下位からは褐色の地山層を検出した．一方，表門の壁側にあたる調査区南側は基礎のための掘り方があり，地表下1.3m程まで現代埋土が充填されていた．基礎は地表下0.47mで赤レンガの最上段を検出，上から４段，２段，２段と階段状に下へせり出る形で積まれている．最下段の赤レンガの底面は地表下1.05m程で，そこから1.3m程まで挽土の円礫が入っており，赤レンガとの間にはモルタルが敷かれていた．掘削範囲は全て基礎の掘り方埋土内に収まり，文化層への影響はなかった．

五高記念館（②地点）は，第五高等学校の旧本館にあたる．調査区は建物北側の西側に，南北3.3m×東西0.75m程で設定し，一部基礎構造の確認のため，拡張区を東西に張り出すように設けた．全体の層序は0.3m程まで現代埋土で，北端を除き，全体が基礎の掘り方により撹乱を受けていた．基礎は地表下0.3mで赤レンガの最上段を検出，上から１段，１段，２段と階段状にせり出る形で積まれている．最下段の赤レンガの直下にはモルタルが敷かれ，そこから地表下0.8mまでは，せり出すような形で円礫を密に含むコンクリート基礎が設置され，さらにそこから階段状に円礫コンクリート基礎が地表下１mまで敷かれている．下位の円礫混じりコンクリート基礎はコンクリートが浸透していないためか，円礫が緩くかんだ状態である．地表下１mより下位には黒褐色の土層が検出でき，掘削はしていないが古代の包含層の可能性がある．遺物として，掘り方埋土から大量の近代瓦が出土したが，取り上げはしなかった．

化学実験場（③地点）では建物の東側，階段教室の南東角（以下南トレンチ）と実験室の外側（以下北トレンチ）について調査をおこなった．南トレンチでは南北1.05m×東西0.6mの調査区を設けている．地表下0.25mで赤レンガを検出し，上から１段，３段と階段状にせり出ている．最下段の赤レンガ底面のレベルは地表下0.55mで，その直下に円礫混じりコンクリート基礎が少なくとも地表下0.8mまで認められる．他の地点と異なり，コンクリ基礎の掘方が狭く，掘り方にそのままコンクリートを流し込むことで施工したかのようである．層序は，地表下0.45mで近代と思ほしき明褐土が，0.62mで古代と思ほしき黒褐土が検出された．構造把握のために若干掘方壁面となる土を削ったが，遺物は出土していない．北トレンチは0.95m×0.9mの調査区で，地表下0.35mで赤レンガを検出した．上から１段，３段と階段状にせり出ている．最下段の赤レンガ底面のレベルは地表下0.61mで，その直下に円礫混じりのコンクリート基礎が地表下1.02mまで認められる．掘削範囲は全て基礎の掘り方埋土内に収まり，文化層への影響はなかった．遺物として近代陶磁器が数点埋土内から出土している．

写真56　①地点人力掘削作業風景（北より）

写真57　①地点掘削状況（北より）

写真58　②地点掘削状況1（北東より）

写真59　②地点掘削状況2（東より）

写真60　②地点掘削状況3（東より）

写真61　③地点掘削範囲（南東より）

写真62　③地点南トレンチ掘削状況（東より）

写真63　③地点北トレンチ掘削状況（東より）

Ⅱ－2　黒髪南地区　（図４参照）

１．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営工事に伴う立会調査（試掘）

＜調査期間＞

2013年４月３日

＜調査面積＞

23.4㎡

＜調査員＞

大坪志子・柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区国際技術研究拠点施設新営工事に係る，埋蔵文化財の存在状況確認の試掘調査である．熊本市文化振興課が主導でおこない，センター職員が立ち会った．本調査区の北側に位置する0203地点において，近世の畑址と旧宮営墓地が検出されており，本調査区内に延びている可能性が高かったため，３か所にトレンチを入れ，これらの遺構の広がりを確認した．①トレンチは調査区北東隅より，幅1.7mで西へ7.25mの掘削をおこない，2.83mの深さで近代墓の遺構面を検出した．遺構面はトレンチ西端から中ほどまでで途切れたため，トレンチの拡張を終了した．②トレンチは調査区南東に，幅1.6mで北へ3.4mの掘削をおこなった．①トレンチの遺構面と同じレベルに達しても，遺構面は検出されなかった．①・②トレンチから，近代墓群の広がりは調査区北東側までと推定された．

③トレンチは調査区中央より南西に２×２mで深さ2.6mの掘削をおこなった．トレンチ北壁から底面にかけて，東側に広がる大きな撹乱が認められたため，遺構は確認されないと判断し試掘調査を終了した．

写真64　①トレンチ作業風景（北東より）

写真65　①トレンチ掘削状況（東より）

写真66　①トレンチ南壁東端土層断面（北より）

写真67　②トレンチ掘削状況（南より）

図4　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）

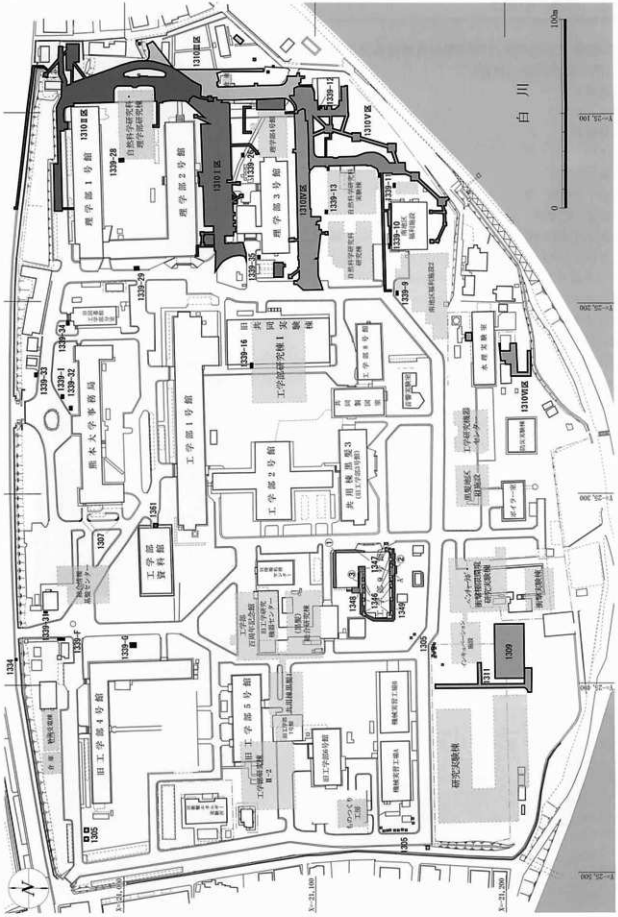


写真68　②トレンチ東壁土層断面（西より）

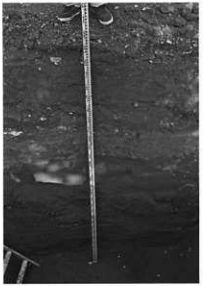


写真69　③トレンチ掘削状況（南より）

写真70　③トレンチ北壁土層断面（南より）

2.（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障樹木移植等工事に伴う立会調査（1305）

＜調査期間＞

2013年6月17日・21日・25日

＜調査面積＞

67.96㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

国際革新技術研究拠点施設新営工事に際し，支障となる樹木の移植工事である.

掘削は移植先から開始した．移植先は大きく3か所にわたる．まず，黒髪南地区の駐車場の北西隅，駐輪場の東側で掘削をおこなった．2×2mの範囲を地表下1.1mまで掘削したが，埋土内であった．過去の調査事例からも，この深さで包含層や遺構面が検出されることは無いと判断される．次に，黒髪南地区の工場西側に位置する緑地帯において，最も深くなる予定のフェンス沿いを掘削した．1.5×1.6mの範囲を地表下1.0mまで掘削したが，埋土内であった．周辺の移植は，これ以上深くはならないため，慎重に施工するように指導した.

写真71　移植先駐輪場東側作業風景　（北西より）

写真72　移植先駐輪場東側掘削状況　（西より）

次に，インキュベーションラボラトリー施設北側の道路を挟んだ向かいにある緑地帯において掘削をおこなった．1.6×1.35mの範囲を地表下0.8mまで掘削したが，埋土内であった．他の樹木はこれ以上深く掘削しないため，慎重に施工するように指導した．

移植元は，インキュベーションラボラトリー施設の西側に植栽されている樹木である．この中で，５本，大型の樹木を選定して立会調査をおこなった．根元を直径1.2～1.4m残し，その周囲を幅約１mで掘削した．深さは0.8～1.3mである．いずれも埋土内で収まった．他の小さな樹木はこれ以上の掘削を伴わないため，慎重に施工するように指導した．出土遺物はない．

写真73　インキュベーションラボラトリー南西側作業風景(西より)

写真74　インキュベーションラボラトリー南西側掘削状況(北西より)

３．(黒髪南) 国際革新技術研究拠点施設新営その他工事に伴う立会調査 (1309)

＜調査期間＞

2013年８月８日～10月７日

＜調査面積＞

700㎡

＜調査員・参加者＞

柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

本調査は，平成24年度に計画があげられた国際革新技術研究拠点新設工事に先立っておこなわれた．本地点付近では，ベンチャーラボ・衝撃極限環境研究実験棟及び衝撃実験棟建設工事に伴う調査（9909調査地点），インキュベーションラボラトリー建設のための調査（0203調査地点）の成果があり，明治初期ごろの旧熊本刑務所の土坑墓群と，近世畑址が検出されることが想定された．それに伴い，４月３日に熊本市文化振興課によって試掘調査が実施され，土坑墓群が調査区東側に展開することが確認された．調査区の遺構は，東側の近代墓群と西側の近世畑址に大別される．遺骨の取り上げは，土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏に依頼した．本調査地点は緑地帯として利用されていた．表土層の下に，昭和28年の白川大水害の際の砂層が堆積し，その下に近代理土層があり，遺構面に達する．

今回の調査で検出した主な遺構は，近代土坑墓群と近世畑址である．

土坑墓は遺構面より，直径約1.2mで地表下1.5m程掘り込んでいる．調査区東側に展開する．墓群は整然と並び，南半面は特にその傾向が顕著である．人骨に白色繊維が付着している点と，埋土中に木材の残滓が部分的に微量ながら確認された点，及び人骨を取り上げた後に鉄釘が検出される点から，麻のような繊維質の袋にくるんだ後に，木桶にいれて埋葬したものと考えられる．埋葬姿勢は座位であり基本的に副葬品は出土しないが，徳利２点，鉄製の容器，囚人札，数珠等が少数出土している．

調査区西側に畑址が展開する．遺構面は，土坑墓群とほぼ同一のレベルである．過去の調査事例により（熊本大学埋蔵文化財調査室年報９），近世期の畑址と想定される．畝址は約0.1～0.2mほどの深さであり，畝内部に砂が堆積していたため，比較的容易に遺構が検出できた．畝幅は0.3m程度である．出土遺物はほとんどないが，わずかに陶磁器片と黒曜石片が検出された．

本調査地点の遺構は近世・近代を中心とする．近代の人骨は，考古学的に状況があまり把握されていないため，良好な資料である．人骨に関しては，土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏，NPO法人人類学研究機構の松下真実氏に分析を依頼しており，本報告の際に合わせて成果を述べる予定である．また，耕作作物に関しても，部分的に土壌サンプルを採取しており，今後本報告にてその成果は報告したい．

写真75　1号墓副葬品出土状況（東より）

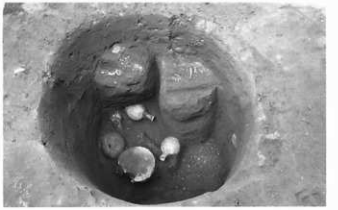


写真76　65号墓人骨検出状況（南より）

写真77　21号墓人骨検出状況（北より）

写真78　90号墓人骨検出状況（北より）

写真79　9号墓骨壺完掘状況（北より）

写真80　骨壺群出土状況（北より）

写真81　繊維検出状況（西より）

写真82　銭出土状況（東より）

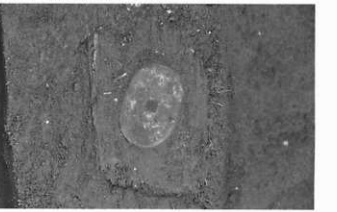


写真83　囚人礼出土状況（南より）

写真84　土坑墓群完掘状況（北より）

写真85　近世畑址完掘状況（北より）

写真86　調査区南壁土層断面（北より）

4．（黒髪南）ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う立会・発掘調査（1310）

＜調査期間＞

2013年８月６日～（継続中）

＜調査面積＞

5275.6㎡

＜調査員＞

大坪志子・山野ケン陽次郎・浦辻栄治・柴田　亮．
石橋和久・中村幸史郎・西谷彰（九州文化財研究所）・宮崎拓（有明測量）．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区の東部，理学部棟周辺を中心に実施した排水・ガス・電気，点検口，検水槽などの整備事業である．本事業は，工事範囲が広く，その内容も多岐にわたるため，施工期間を勘案すると多地点において工事・立会調査・発掘調査を同時進行で進行せざるをえない状況となった．さらに，掘削箇所のほとんどが古代の遺構面まで到達する上に，カマド付の竪穴住居址や溝が複数発見されているため，発掘調査にも時間を要した．さらに2014年３月には古代の遺構面より下位から縄文時代後期を主体とする遺物包含層が確認され，その遺物密度が高いことから調査対象としている．

しかし，他地区における事業と調査期間が重なっており，本センターでは当初，調査員１名体制で臨まなければならなかった．そのため，８月21日～９月30日に九州文化財研究所，10月15日～３月31日の期間は有明測量に補助業務を委託した．８月～10月15日は大坪が担当，10月15日～３月31日は山野が担当し発掘調査を実施している．また，12月から浦辻が発掘調査に加わった．

調査区名については，工事範囲が広範であり，調査地点も多いため，調査実施時に対処範囲を６区に分割し，さらに工事単位毎に枝番号を付した．報告は区毎とする．また，発掘調査は2014年４月１日以降も継続して実施されているが，年報では2013年度調査分のみを報告するに留めた．

発掘調査では，重機による現代埋土の掘削後，古代の包含層である黒褐色土の検出・掘削をおこない，直下の褐色砂質土上面で古代の遺構検出をおこなった．ただし，調査区によっては，古代の包含層直上に近世の遺物を含む暗褐色土が厚く堆積しているため，その検出・掘削と，包含層上面での遺構検出もおこなっている．また，後述するⅢ①区における縄文時代後期遺物の包含層発見以後は，古代の遺構の記録保存後に褐色砂質土より下位の掘削も実施した．

遺物として，暗褐色土からは近世・近代の土器や金属

製品，砥石，古銭，泥面子などが出土している．また，黒褐色土および古代の遺構埋土中からは土師器，須恵器，鉄器，砥石などが出土している．褐色砂質土およびその下位の層からは縄文時代後期を中心とする土器や石器が出土した．

【Ⅰ区】

Ⅰ区は，北側に理学部号Ⅰ・２館，南側に理学部３号館の校舎が位置する校舎間の道路部分に相当する．排水桝（人孔），排水管，側溝，集水桝，側溝等を埋設するための工事に伴い，立会調査・発掘調査を実施した．工事と人・車両到来の都合上，①～⑨に区分した．

一次掘削で地表下0.6m～0.7m程度で古代の遺物包含層が確認でき，地表下0.7m～0.9m程で遺構面である．

東西に調査区が展開するⅠ区は，おおよそいずれの調査区からも古代の竪穴住居址と複数の柱穴・ピット・溝・土坑が検出された．住居址は調査区が狭小で全容を把握できるものは無かったが，竈が遺存しているものもある．部分的に検出されたものでは，硬化した床面，所謂硬化面の存在で住居内と認識したものもある．これらの遺構群は途切れることなく東西に連続しており，9811調査地点（熊本大学埋蔵文化財調査室年報５）において

写真87　Ⅰ区②完掘状況（南より）

写真88　Ⅰ区③調査完了状況（南より）

写真89　Ⅰ区⑤調査完了状況（南より）

写真90　Ⅰ区⑥完掘状況（東より）

写真91　Ⅰ区⑦完掘状況（西より）

確認した集落の続きと考えられる．

全範囲が撹乱であった調査区，施工が遺構の破壊を伴わないため遺跡を現地保存した調査区も少数ある．

写真92　Ⅰ区⑧完掘状況（北西より）

写真93　Ⅰ区⑫完掘状況（東より）

写真94　Ⅰ区㉓完掘状況（東より）

写真95　Ⅰ区㉔完掘状況（南西より）

写真96　Ⅰ区㉕完掘状況（西より）

【Ⅱ区】

Ⅱ区は黒髪南地区の北東隅，理学部１・２号館，自然科学研究科・理学部研究棟の北東側および，58号線の道路沿いに相当する．排水桝，排水管，側溝，ガス管，検水槽などの埋設，およびアスファルト舗装などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．

地表下0.5～0.6m程で古代の包含層が，地表下0.7～0.8m程で遺構面が認められている．また，調査区によっては，古代の包含層の直上に，近世・近代の遺物を含む暗褐色土が0.1～0.2m程堆積していたため，包含層上面での遺構検出もおこなっている．

遺構としては，竪穴住居址やピット・土坑・柱穴・溝が確認された．他地区と同様に，調査区が矮小であるため，住居址や溝の全容把握には至っていないが，Ⅱ区南側では北壁に竈を有する竪穴住居址が３～４基確認されている．これらはⅠ区と同様に，9811調査地点で確認されている７世紀後半～９世紀前半の集落の続きと考えられる．他地区の調査成果も考慮すると，年代の精査が必要なものの，黒髪南地区の東端には広い範囲で古代の集落が形成されていたことが明確となったといえる．

写真97　Ⅱ区①発掘作業風景（西より）

写真98　Ⅱ区①完掘状況（西より）

写真99　Ⅱ区④－２　25号住居址竈検出状況（南より）

写真100　Ⅱ区④－４完掘状況（西より）

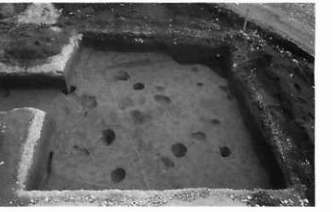


写真101　Ⅱ区⑤掘削状況（西より）

写真102　Ⅱ区⑧完掘状況（西より）

【Ⅲ区】

Ⅲ区は黒髪南地区の東端，理学部２号館および理学部３・４号館の東側に相当する．排水桝，排水管，側溝，ガス管などの埋設，および樹木撤去，アスファルト舗装などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．

地表下0.25～0.5m程度で古代の包含層が，地表下0.4～0.6m程で遺構面が認められた．また，Ⅲ区北西端では包含層上面での遺構検出をおこなったところ，後述する近世と思われる遺構も検出している．また，Ⅲ区南端では近代の建物基礎と考えられる方形を呈する石列も検

写真103　Ⅲ区①・②近世溝・土坑検出状況（北西より）

写真104　Ⅲ区①古代遺構検出状況（西より）

写真105　Ⅲ区①オリーブ褐色砂層土器出土状況（西より）

写真106　Ⅲ区②黒褐色砂層土器出土状況（南より）

写真107　Ⅲ区③完掘状況（北より）

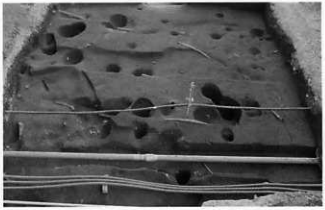


写真108　Ⅲ区⑤完掘状況（北より）

出したが，写真と簡易な測量のみに記録を留めている．

本区では遺構として，古代の竪穴住居址やピット・土坑・柱穴・溝が確認されている．また，本区北西端では，幅約３m，北でやや西に傾く古代の南北溝が検出されており，この溝とほぼ同軸上に近世の溝が重複していた．また，この溝を切る形で近世の大型土坑も確認されており，この調査以後，古代の包含層を形成する黒褐色土の上面における近世遺構の検出の必要性が生じた．

また，本区における大きな成果として，縄文時代の包含層の発見が挙げられる．上述した古代の南北溝の掘方壁面に，ほぼ同じレベルで縄文土器が複数点検出されたため，古代の遺構面を形成している褐色砂層を掘り下げたところ，地表下約0.5～1.0mで縄文時代後期前葉を主とする土器片や石器が大量に出土した．そのため，この調査区における発見以後，褐色砂層を掘削する必要のある調査区は褐色砂層より下位の堆積層も掘削し，縄文時代の遺物の有無を確認する作業をおこなっている．

【Ⅳ区】

Ⅳ区は理学部３・４号館と自然科学研究科研究棟・実験棟・ヘリウム棟の位置する校舎間の道路部分にほぼ相当する．排水桝，排水管，側溝，ガス管，点検口などの

写真109　Ⅳ区①人力掘削作業風景（西より）

写真110　Ⅳ区①完掘状況（西より）

写真111　Ⅳ区②完掘状況（西より）

写真112　Ⅳ区③完掘状況（西より）

写真113　Ⅳ区③掘削状況（南西より）

写真114　Ⅳ区④完掘状況（南より）

写真115　Ⅳ区⑤・⑥古代遺構検出状況（東より）

写真116　Ⅳ区⑥19号住居址竈周辺　遺物出土状況（東より）

写真117　Ⅳ区⑥・⑦完掘状況（西より）

写真118　Ⅳ区⑧完掘状況（西より）

埋設，および樹木抜根などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．

近世・近代の包含層である暗褐色土が地表下約0.4～0.5mで検出され，地表下約0.6～0.7mで古代の包含層に到達し，地表下約0.8～0.9mで古代の遺構面を検出した．

遺構として，東西に長い調査区に竪穴住居址や溝，ピット，土坑，柱穴などが複数基確認されている．

Ⅳ区の多くの調査区は，Ⅲ区における縄文時代の包含層確認以前に発掘調査をおこなっているため，古代の遺構までを掘削するにとどまった．そのため，浸透井戸およびこれに付随する排水管のための掘削では縄文時代の遺跡の多くを記録しないまま破壊している可能性があることを明記しておく．

【Ⅴ区】

Ⅴ区は黒髪南地区の南東側，白川沿いのヘリウム棟周辺付近から南地区福利施設にかけてである．排水桝，排水管，側溝，ガス管などの埋設，およびアスファルト施工などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．

Ⅴ区では，南地区福利施設の北東角とヘリウム棟の南西角を結んだライン付近で堆積状況が大きく異なることが確認できた．北側では，Ⅳ区とほぼ同じように，近世・近代の包含層である暗褐色土が地表下約0.4～0.5mで検出され，地表下約0.6～0.7mで古代の包含層に到達し，地表下約0.8～0.9mで古代の遺構面を検出している．これに対して白川右岸近辺にあたる南側では地表下約1.5～1.7mまでが，ガラスや現代瓦，赤レンガなどを含む現代埋土で盛土されていた．ただし，Ⅴ区の最も南側では現代埋土の直下には，黒褐色土が白川へ傾斜するように堆積しており，古代の土器片が得られている．本区の多くでは，遺構検出面は地表下約1.6～1.8mと他の地区に比べて深く，近世や近代と思わしき溝やピットが検出されている．また，調査区の一つからは年代は判然としないが，近世から近代と思われる南北に軸を持つ石組の溝が検出された．

写真119　Ⅴ区①完掘状況（北より）

写真120　Ⅴ区③－２石組み溝検出状況（北西より）

写真121　Ⅴ区⑤重機掘削作業風景（北より）

写真122　Ⅴ区⑥完掘状況（北より）

写真123　Ⅴ区⑦完掘状況（南より）

【Ⅵ区】

Ⅵ区は黒髪南地区南端に位置し，水理実験棟北側の換気口と，南地区ポンプ室周りの給水管を埋設するための工事に伴い，立会を実施した．

南地区ポンプ室周りの15×15m程の範囲を掘削している．北側と西側の一部の重機掘削に立ち会ったが，地表下0.3～0.6m程度の掘削で，すべて現代埋土内に収まっている．遺物・遺構の検出はなく，文化層への影響は一切ないため，掘削を慎重に行うよう指示し，引き渡している．

写真124　Ⅵ区①掘削状況（東より）

写真125　Ⅵ区②掘削状況（東より）

5．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営に伴う支障配管替に伴う立会調査（1311）

＜調査期間＞

2013年９月24日～10月４日

＜調査面積＞

101㎡

＜調査員＞

柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

1309調査地点の一次掘削に伴い撤去された配管の切替工事である．本調査区は，1309調査地点の西側に位置する．

掘削深度は最も深いところで地表下1.3m程であり，いずれの地点も黒色の水成混砂層内に収まった．遺物包含層の検出はなく，遺構・遺物も認められなかった．

写真126　配管部分掘削状況（北より）

6.（黒髪北・黒髪南）屋外サイン設置工事に伴う立会調査（1339）

＜調査期間＞

2014年２月17日～26日

＜調査面積＞

196㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

黒髪北・南地区内に，複数のサインを設置する工事である．サインの基礎設置に係る掘削であり，掘削深度は最も深いところで0.55mであった．掘削は全64箇所に及ぶものの，ほとんどが現代の埋土で収まっていた．遺物包含層が検出されたのは黒髪北地区で４箇所，南地区で２箇所であった．

南地区では，㉛と㉞地点で包含層が検出された．㉛地点は地表下0.35m付近で包含層が検出された．しかし，掘削範囲内にガス管が通っていたこともあり，掘削地点をやや東にずらすことで現状保存の措置を取った．２回目の掘削地点は埋土内で収まっている．㉞地点は地表下0.3mという浅い深度で，包含層が検出された．精査ののち，0.25m程度掘り下げた深度0.55mのところで，部

写真127　㉛地点包含層検出状況（南より）

写真128　㉞地点包含層検出状況（西より）

写真129　㉗地点掘削状況（南西より）

写真130　⑫地点掘削状況（西より）

分的に現代の攪乱があったものの，遺構が検出された．検出面積が狭く，遺構の性格までは峻別できなかったが，遺構検出面が施工に必要な深度を満たしていたため，現状保存とした．遺物は須恵器片や大型の石材が出土している．

なお，包含層・遺構が検出された地点では，山砂を敷くことで，保護する措置を取っている．

7．(黒髪南) 総合研究棟（工学系）改修工事に伴う立会調査（1346）

＜調査期間＞

2014年３月６日～３月17日

＜調査面積＞

29.45㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

総合研究棟（工学部９号館）改修に伴い，建物周囲へのアルミルーバーの設置にかかわる立会調査を実施した．

掘削箇所は計10か所で，1.4m×1.74mが７か所，２m×2.49mが３か所の計10か所である．掘削深度はいずれも0.25～0.4m程で人力掘削によりおこなった．掘削箇所は全て表土から建物の掘方埋土中に収まっており，遺構・遺物は検出されず，文化層に影響はなかった．

写真131　掘削状況1（北より）

写真132　掘削状況2（北より）

8．(黒髪南) 総合研究棟（工学系）改修工事に伴う立会調査（1347）

＜調査期間＞

2014年２月26日～３月６日

＜調査面積＞

132.9㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

総合研究棟（工学部９号館）周囲の樹木抜根，庭石撤去，機械基礎撤去などに伴う立会調査を実施した．主に重機で掘削し，必要に応じて人力掘削をおこなった．

建物北と東の樹木抜根（①地点）では，いずれも根本をチェーンソウで切断した後，容易に引き抜けるものは周囲を直径１m以内，地表下0.3～0.4m程で，重機による掘削の後に抜根した．ただし，10本中２本の根については大型で抜き取りが困難だったため，周囲を0.3m程掘り下げた後，残存する根をチェーンソウで切断した．いずれも現代埋土内の掘削である．

建物南側の機械基礎撤去（②地点）は３m×5.2mの範囲で３か所の方形基礎を対象とした．基礎を重機で破砕し，瓦礫を取り上げたところ，地表下0.2m程の掘削であった．

建物中央屋外広間にある庭石７つ，樹木４本の撤去・抜根（③地点）についても，重機による抜き取り，除去を行った．庭石は地表下約0.5mまで埋没した１つを除き，全て地表下0.2m程の掘削で済んだ．樹木はいずれも0.3m程で抜き取ることができた．これら庭石の除去，樹木の抜根後，縦樋および雨水排管埋設のため全体を地表下0.2～0.5m掘削したが，全て表土内に収まった．

写真133　①地点樹木抜根作業風景（東より）

写真134　①地点掘削状況（東より）

写真135　②地点機械基礎粉砕作業風景（東より）

写真136　②地点掘削状況（東より）

写真137　③地点掘削範囲全景（西より）

写真138　③地点庭石撤去作業風景（北より）

写真139　③地点掘削状況（西より）

写真140　①地点アスファルト舗装部分掘削状況（東より）

写真141　③地点縁石他舗装部分掘削状況（東より）

この他，①・③地点では緑石・インターロッキングブロック舗装およびアスファルト舗装の施工範囲についても地表下0.1～0.25mの掘削をおこなった．遺物・遺構は検出されず，全掘削箇所で文化層への影響はなかった．

9．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修電気設備工事に伴う立会調査（1348）

＜調査期間＞

2014年2月27日

＜調査面積＞

48.76㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区総合研究棟（工学部9号館）の電気等改修にかかわる立会調査を実施した．本調査地点の掘削範囲は1349地点の掘削範囲の一部と重複しており，掘削深度は後者が深いため，詳細はそちらに記載している．

10．（黒髪南）総合研究棟（工学系）改修機械設備工事に伴う立会調査（1349）

＜調査期間＞

2014年2月27日～3月17日

＜調査面積＞

226㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

総合研究棟（工学部9号）周囲の既設の汚水管・雨水管・ドレン管・桝類などの撤去および新設と，実験用排水漕の設置にかかわる立会調査を実施した．

施工や重機の動線上の都合により，既設汚水管・雨水管・ドレン管・桝類の撤去は，建物中央屋外広間部から幅1.5～1.8m以下で，西へ約25m，そこから南西へ約7m，南へ約12m，さらに東へ約38mと，撤去・新設・埋戻しを繰り返しながらおこなった．一部，建物からの雨水やガス配管，ガスメーターのための掘削も同時並行で行った．また，建物の南側では2.5×3.5mの検水槽設置箇所の立会調査をおこなっている（A地点）．

管類と桝類の撤去では，全て掘り方埋土に収まるように重機による掘削をおこなった．建物中央屋外広間では地表下0.4mで各種管が露出しており，調査区北西隅で地表下0.9m，南西隅で地表下1.3m，建物南側の最も深く設置された管は1.7m程で撤去することができた．既設管が配置されていた掘り方面は全て撹乱しており，ガラスや赤レンガ，近代瓦などが検出でき，掘削範囲はいずれも既設管の掘り方埋土内に収まることが確認できた．また，桝についても0.8～1.7mで撤去することができた．いずれの箇所でも遺物や遺構は検出されず，文化層への影響はなかった．

検水槽設置個所の立会調査では，地表下1.0m程で東西方向のヒューム管が検出されており，その掘り方によって地表下1.3～1.5m程までは全て撹乱土であった．また，調査区の南側三分の一は約2.3mの深度まで全て撹乱していた．一方，北側は地表下1.5mで近世の包含層と思わしき暗褐色砂質土が検出された．この包含層は

写真142　重機掘削作業風景1（東より）

写真143　掘削状況1（西より）

写真144　掘削状況2（西より）

写真145　重機掘削作業風景２（北より）

写真146　掘削状況３（北より）

写真147　掘削状況４（西より）

写真148　掘削状況５（西より）

写真149　掘削状況６（西より）

写真150　Ａ地点重機掘削作業風景（西より）

写真151　Ａ地点近世包含層検出状況（西より）

写真152　Ａ地点掘削状況（西より）

人力で掘削をおこなっており，陶磁器片，瓦片，泥面子などが検出された．面的に掘り下げ，遺構の確認もおこなったが，明確な遺構は検出されなかった．

11.（黒髪南）重要文化財工学部研究資料館耐震診断業務に伴う立会調査（1361）

＜調査期間＞

2014年３月19，20日

＜調査面積＞

4.0㎡（0.99㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

工学部研究資料館の耐震診断および基礎構造の把握のため，本館東側入口前の立会調査を実施した．工学部研究資料館は重要文化財に指定されており，担当者が終始立会い，人力によって慎重に掘削をおこなった．

調査区は入口南側角部に基礎構造の把握のため南北1.55m×東西0.64mで設定した．調査区北半では地表下0.4mでおおよそ基礎掘り方の検出面となり，地表下0.5mで最上段の赤レンガを検出できた．上から２つずつ５段，計10段分の赤レンガが階段状にせり出すように据えられており，最下面のレベルは地表下0.8mであった．最下の赤レンガから少なくとも地表下1.09mまでは円礫を固めたコンクリート基礎が据えてあることが確認できている．掘削は全て基礎の掘り方埋土内に収めており，文化層には影響はなかった．遺物は，掘り方埋土内，地表下0.99mで近代の陶磁器皿が１点出土している．また，掘り方の北壁には包含層らしき暗褐色土が地表下0.45～0.85mまで堆積している様子が確認できたが，遺物などは出土しなかった．

写真153　掘削範囲近景（東より）

写真154　掘削状況１（東より）

写真155　掘削状況２（北東より）

写真156　掘削状況３（北より）

Ⅱ－3　本荘北地区　（図5参照）

1．（医病）中央診療棟東側汚水枡蓋取設工事に伴う立会調査（1316）

＜調査期間＞

2013年10月28日

＜調査面積＞

0.5㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

既存の枡に蓋を設置するための緊急工事である．枡を閉じていたベニヤ板と，上に敷かれた敷き砂の撤去を行った．掘削深度は0.10～0.15cm程度で，遺構・遺物は検出されなかった．

写真157　枡部分掘削状況（南より）

2．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（舗装・構造物関係）に伴う立会・発掘調査（1320）

＜調査期間＞

2013年11月20日～（継続中）

＜調査面積＞

3309.8㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

工事内容はアスファルト舗装，側溝，ガードパイプ，フェンス，インターロッキング等の撤去である．掘削深度が浅いものが多く，1321地点と調査範囲がほぼ同一のため，詳細は1321地点の報告を参照願いたい．

3．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）に伴う立会・発掘調査（1321）

＜調査期間＞

2013年11月15日～（継続中）

＜調査面積＞

1637.4㎡（57㎡）

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

工事内容は既存桝・管および車止めなどの障害物の撤去と，門型カルバート改修，人孔の新設である．調査地点が複数におよぶため，複数回に分けて立会調査をおこなった．本工事範囲の南側半面は，他の工事用地として使用されていたため，今年度おこなわれた主な工事は，障害物の撤去および門型カルバート設置工事である．障害物の撤去は深いところで1.5m程度の掘削であり，すべて現代の埋土内で収まった．

門型カルバート設置工事に係る掘削で，遺物包含層が検出された．精査の結果，溝と竪穴住居址が検出されたため，熊本市文化振興課の許可を得て発掘調査に切り替えた．なお，門型カルバート設置工事に伴う掘削箇所は4か所に分かれるため，便宜的に北東部をⅠ調査区，南東部をⅡ調査区，北西部をⅢ調査区，南西部をⅣ調査区と呼称する．

Ⅰ調査区内は大部分が後世の攪乱を受けており，遺構面直上まで現代の埋土であり，遺構としては，溝2条と竪穴住居址3軒，ピット4基が検出された．3号溝と5号竪穴住居址はⅠ調査区の東端に位置する．3号溝・5号住居から西側に2m程度の場所に，6号・8号住居および7号溝が位置している．また，6号住居を切る形で7号溝が位置する．なお，Ⅱ～Ⅳ調査地点については，次年度に調査をおこなう予定である．

写真158　サークルベンチ撤去状況（北東より）

図5　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）

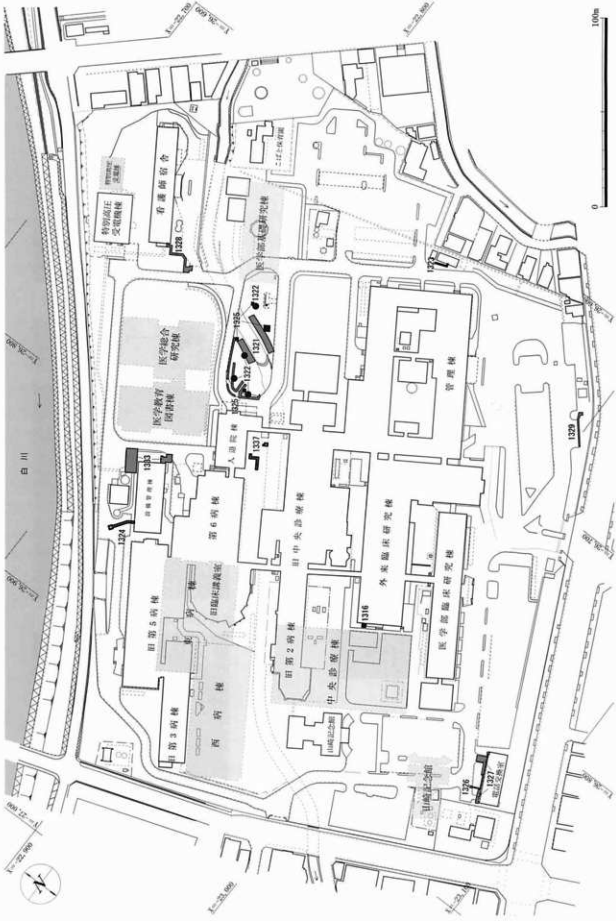


写真159　看板撤去状況（南西より）

写真160　L型枡撤去状況（南より）

写真161　枡撤去状況（北より）

写真162　既設管撤去状況（東より）

写真163　擁壁撤去状況１（西より）

写真164　擁壁撤去状況２（西より）

写真165　Ⅰ調査区掘削前全景（南より）

写真166　Ⅰ調査区遺構検出状況（西より）

写真167　Ⅰ調査区完掘状況（北より）

写真168　3号溝完掘状況（西より）

写真169　3号溝・5号住居址土層断面（西より）

写真170　6・8・9号住居址完掘状況（西より）

写真171　7号溝完掘状況（西より）

写真172　7号溝遺物出土状況（北より）

写真173　住居址・溝完掘状況（西より）

4．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）に伴う立会・発掘調査（1322）

＜調査期間＞

2013年11月15日～継続中

＜調査面積＞

73㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

樹木の抜根と移植をおこなう工事である．調査を実施した地点は全て埋土内であった．作業工程上，施工できない箇所は来年度に持ち越しとなった．

写真174　移植前全景（南西より）

写真175　掘削状況（南より）

写真176　調査区中央部伐根状況（北より）

写真177　伐根状況（南より）

写真178　伐根状況（西より）

写真179　伐根前状況（西より）

5．（医病）作業室改修機械設備工事に伴う立会調査（1323）

＜調査期間＞

2013年11月19日

＜調査面積＞

3.75㎡

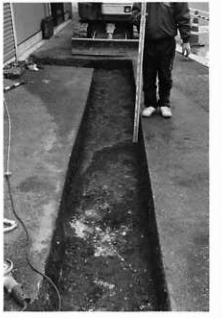
＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

既存管から車庫へ，埋設管をつなぐ工事である．掘削深度は最も深いところで0.3m程であり，すべて埋土内であった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真180　埋設管部分掘削状況（北より）



6．（医病）設備管理棟ボイラー設備等工事（配管工事）に伴う立会調査（1324）

＜調査期間＞

2013年11月19日

＜調査面積＞

17.7㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

既存ガス管をボイラー棟まで伸ばす工事である．調査区北面より，深度0.8m程で地山が検出されたため，精査をおこなったが，遺構は認められなかった．また，工事に必要な掘削深度が地山よりも上面であったため，埋蔵文化財への影響はないものと判断し，慎重に工事するよう指示をした．そのほかの部分は全て埋土内であった．

写真181　地山検出状況（西より）

写真182　ガス管部分掘削状況（南東より）

7．（医病）基幹整備（電気設備）工事に伴う立会調査（1325）

＜調査期間＞

2013年11月20日

＜調査面積＞

468.1㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

本荘北地区の電気設備工事に伴う立会調査である．工事内容は，既存ハンドホール・外灯・照明灯の撤去と，その新設である．他の工事用地が調査区の範囲にかかっており，全調査を今年度中におこなうことが困難であった．そのため，工事ができる範囲のみを立会い，残りは来年度に回すこととなった．掘削深度は最も深いところで1.5m程あったが，いずれも埋土内に収まった．

写真183　既設ハンドホール撤去状況（北より）

8．（医病）旧電話交換室改修機械設備工事に伴う立会調査（1326）

＜調査期間＞

11月21～22日

＜調査面積＞

13.78㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

既存の水道管から，旧電話交換室に向けて新たに給水管を通す工事である．掘削深度は最も深いところで0.9m程であったが，いずれも現代の埋土内であり，遺物包含層・遺構面は検出されなかった．

写真184　水道管部分掘削状況1（南より）

写真185　水道管部分掘削状況２（南より）

写真187　新設建物部分掘削状況（東より）

9．（医病）旧電話交換室改修工事に伴う立会調査（1327）

＜調査期間＞

11月21～22日

＜調査面積＞

36.4㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

既存スロープ基礎撤去および新設工事に伴う立会調査である．掘削深度は舗装面より0.57mであり，いずれも現代の埋土内で収まった．遺構・遺物の検出はない．

写真186　既設スロープ基礎部分掘削状況（南より）

10．（医病）看護師宿舎屋外ガス配管改修工事に伴う立会調査（1328）

＜調査期間＞

11月25～26日

＜調査面積＞

30.5㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

看護師宿舎に，既存のガス管より新たにガス管をつなぐ工事である．掘削深度は浅いところで0.5m，最も深

写真188　ガス管部分掘削状況（南東より）

いところで1.3m程であり，いずれも現代埋土および山砂で収まった．

11.（医病）駐車場ゲートインターホン移設工事に伴う立会調査（1329）

＜調査期間＞

11月29日

＜調査面積＞

22.6㎡

＜調査員＞

柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

既存ハンドホールより電気線を新たに通し，インターホンを移設する工事である．ハンドホールに隣接して下水枡が検出されたため，枡に沿う形で管路を掘削した．掘削深度は深い地点で0.8m程度であり，いずれも埋土内であった．

写真189　電気線部分掘削状況（北東より）

12.（医病）設備管理棟ボイラー設置等工事（重油地下タンク更新・汚染土壌除去）に伴う立会・発掘調査（1333）

＜調査期間＞

1月17日～2月12日

＜調査面積＞

92.4㎡

＜調査員＞

柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

工事内容は，既存の地下タンクを撤去した後，新たなタンクを設置する工事と，汚染土壌を除去する工事の二つに分けられる．工事内容が二分されるため，数度に分けて立会調査をおこなった．

地下タンクの撤去のため，タンクの周囲を幅1.2m，深さ3.3m程掘削したがすべて現代埋土であった．地下タンクを撤去すると，タンクの下より遺構面が部分的に検出されたが，遺構は確認されなかった．タンクの深さが3.3mと非常に深く，タンク周囲が埋土で覆われていたことから，遺構が残っている可能性は低いと判断し，その後の工事を慎重におこなうよう指示して立会調査を終了した．遺物も出土していない．

汚染土壌の除去対象となる地点は，ガス管・電気管が多数通っており，包含層の大部分が削平されていたものの，地表下0.6m付近から厚さ2㎝程度，包含層が残っていた．その後精査をおこなったところ，遺構面にピットが確認されたため，発掘調査に切り替えた．ピットは3基検出されたが，ピット内から遺物の出土はなく，包含層と遺構面の直上から須恵器・土師器の細片が数点検出されたのみである．

写真190　作業風景（北西より）

写真191　タンク撤去状況（東より）

写真192　汚染土壌部分遺構完掘状況１（南より）

写真193　汚染土壌部分遺構完掘状況２（南より）

13.（医病）外来診療棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1337）

＜調査期間＞

2014年２月10日

＜調査面積＞

15㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

本調査は，前年度に行われた1222調査地点でおこなわれた調査の継続分となる．部分的におこなわれていなかった箇所について立会調査をおこなった．工事内容は，新たな雨水桝の設置と管の接続である．このうち，排水管設置に係る掘削は，深度が浅く埋土内で収まったが，雨水桝設置に係る掘削の際に遺構面を検出した．遺構面は深度1.3m程度で検出されたが，遺構は認められなかった．そのため，慎重に掘り下げを進め，施工必要深度の1.7m付近まで掘削した．遺物も出土していない．

写真194　枡部分地山検出状況（西より）

写真195　水道管部分掘削状況（西より）

Ⅱ－4　本荘中地区　（図6参照）

1．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（地下タンク）に伴う立会調査（1317）

＜調査期間＞

2013年11月1日～12月18日

＜調査面積＞

100.1㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

調査地点は，本荘中地区の東端の生命資源研究・支援センターに隣接する．本調査は，地下タンクの新設に先立つ調査である．1318・1317調査地点が隣接するため，一括で発掘調査をおこなった．本荘中地区では，1106・1223調査地点などでまとまった面積の調査がおこなわれており，古墳・古代期の溝や住居址が検出されているが，調査位置は本荘中地区の中央部に集中していた．そのため，本調査地点の位置する中地区東側は調査事例が少なく，遺構の遺存状態は不透明であった．加えて，建物に隣接しているため，遺構の残存状況が懸念された．

調査区内は，生命資源研究・支援センターより約2m程度，建物の掘り方によって撹乱を受けていた．

1・2層はアスファルトおよび砕石であり，その下に現代埋土（3層）が堆積する．また，その下部には，4層：暗褐色土層があり，5層：褐色土層，6層：地山と堆積する．4層が中近世，5層が古代の遺物包含層である．

遺構は，竪穴住居址2基・溝5条とピット等が検出された．

5号・17号住居址はともに16号溝に切られる．5号住居址は硬化面が残り，土師器や須恵器の小片が出土した．17号住居址は5号住居を切っており，硬化面は残っていない．16・11・10号溝の3つの溝は，溝の方向・掘り方はほぼ同一であるが，溝埋土の堆積状況から，使用時期が3つに大別されると考えられた．出土遺物から時期幅が広いものと想定されたため，それぞれ別の溝として取り扱った．これらの溝は，ほぼ南北軸に沿って形成されている．

最も古い溝は，地山より掘り込まれる16号溝である．土師器・須恵器とともに獣骨も出土している．11号溝は5層から掘り込まれるである．11号溝の底面は硬化しており，ブロック状になるものも確認された．その後4層堆積後，10号溝が形成される．10号溝の底も硬化しており，底面で獣骨がまとまって検出された．瓦質土器などが出土したことから，中近世期に属するものと考えられる．19号溝は16号溝以前に形成された溝である．東西軸に延びており，西から東にかけて大きく広がっている．古代の須恵器・土師器が多く出土しており，底面は極めて硬化していた．

写真196　調査前全景（北より）

写真197　10号溝検出状況（北西より）

写真198　10号溝遺物出土状況（北より）

図6　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）

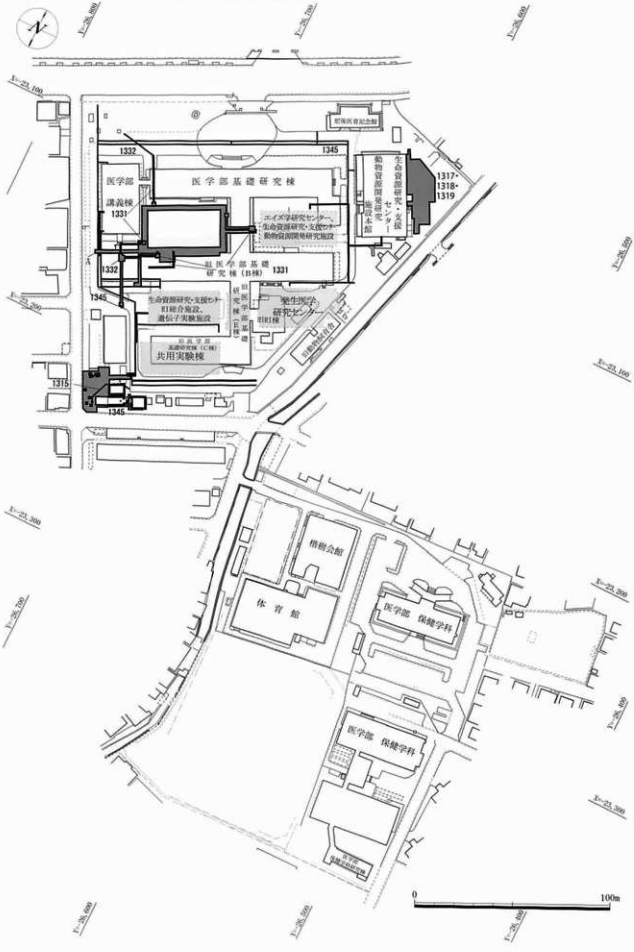


写真199　10号溝獣骨出土状況（東より）

写真200　10号溝獣骨出土状況（西より）

写真201　11号溝獣骨出土状況（西より）

写真202　遺構検出状況（北東より）

写真203　溝完掘状況（北より）

写真204　10・11・16号溝土層断面（北より）

写真205　作業風景（南より）

2．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（発電機設備）に伴う立会調査（1318）

＜調査期間＞

2013年11月1日～12月18日

＜調査面積＞

236.4㎡

＜調査員＞

柴田　亮

＜調査概要・結果＞

調査地点は，1317地点の北側に隣接する．工事の主体

は発電機設備工事である．調査区内は，1317調査地点と同様に，生命資源研究・支援センターより約２m程度，建物の掘り方によって撹乱を受けている．また，後世の削平を著しく受けており，遺物包含層はわずかしか残存していなかったものの，遺構の遺存状態は良好であり，住居址24基とピットが多数検出されている．

18号住居址は１辺2.3mの小形住居址で，ほぼ主軸を北の方位に合わせて建てられている．硬化面は２層確認できたが，竈は検出されなかった．遺物は少なく，土師器・須恵器が出土したのみである．18号住居址の直下から，１辺２m程度の171号住居址が検出された．18号住居址よりも一回り小型であるが，主軸はほぼ同一である．住居址北西隅に砂岩の破片とともに焼土が散らばっており，竈が破損したものと考えられる．硬化面も厚く形成されていた．遺物は古代の土師器・須恵器が少数見つかっただけである．171号住居址を廃絶後，18号住居址を造りなおしたものと考えられる．

175・174・217・219・216・215号住居址群は，調査区北東部に位置し，１辺約2.3～2.5mである．ほぼ同一のプランと方向を示し，同地点で何度も建て替えている．最も新しいものは175号住居址である．175号住居址には，破損した竈址があり，焼土も確認されている．

写真206　遺構検出状況（北より）

写真207　完掘状況（北東より）

写真208　18号住居址硬化面検出状況（南より）

写真209　171号住居址硬化面検出状況（北より）

写真210　18・171号住居址土層断面（西より）

写真211　171号住居址完掘状況（南東より）

写真212　174号住居址硬化面検出状況（北より）

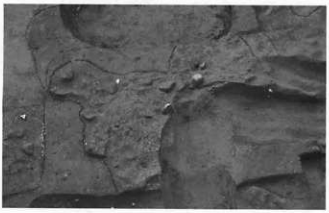


写真213　175号住居址硬化面検出状況（北より）

写真214　217・219号住居址完掘状況（北より）

写真215　299号住居址竃土層断面（東より）

3．（本荘中）基幹整備（自家発電設備）工事（埋設配管）に伴う立会調査（1319）

＜調査期間＞

2013年11月１日～12月18日

＜調査面積＞

155.9㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

本調査地点は先述した1317・1318調査地点の外周に位置しており，工事主体は埋設配管を施工するものである．調査範囲は1317・1318調査地点に含まれるため，調査結果はそちらを参照願いたい．

4．（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事に伴う立会調査（1331）

＜調査期間＞

12月９日～１月14日

＜調査面積＞

83.51㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

先に調査がおこなわれた国際先端医学研究拠点に係る電気設備工事である．調査地点が複数あるため，数度に分けて立会を実施した．いずれも建物に隣接するかたちでハンドホールを新設し，電気管を通す工事である．掘削深度は，深いところで1.3mであり，すべて現代の造成土および山砂であった．

写真216　電気管部分掘削状況１（南より）

5．（本荘中）国際先端医学研究拠点新営電気設備工事に伴う立会調査（1332）

＜調査期間＞

12月９日～３月12日

＜調査面積＞

235.45㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

国際先端医学研究拠点新営に係る電気設備工事である．1331調査地点と同様の工事であるため，並行して立会調査をおこなった．ハンドホールを新設し，既存の電気管につなげる工事である．最も深い地点で0.98m程度掘削したが，現代埋土内であった．また，その他の地点もすべて現代埋土内であったため，立会調査を終了した．

また，医学部ポンプ室周辺の屋外通信線路の立会調査を実施している（②地点）．掘削は，南西から北東に長く北西方向に膨らむ全長約25m，幅約0.7mの調査範囲で，重機により全体を地表下0.5～0.65mまで掘削した．全て現代埋土であり，遺物・遺構は確認できず，文化層への影響は認められない．

追加工事として，国際先端医学研究拠点施設（1223調査地点）の周囲の配管および検水槽の新設がある．ただし，多くは既発掘調査範囲（1130・1205・1223調査地点）におさまるため，新規掘削となる南西隅の消火配管および西端の汚水・雨水排水配管に関わる掘削のみ立会調査を実施した．

消火配管にかかわる掘削では2.5×0.9mのトレンチを設定．西側に地表下0.5mで既設消火配管を確認し，周囲を掘り下げ，最も深い南側では地表下0.8m掘削した．いずれも現代埋土であり，遺物・遺構は検出されず，文化層への影響もなかった．

汚水・雨水排水配管にかかわる立会調査では，約２×２mの方形トレンチの東側に0.8×２mの長方形のトレンチが付随する凸形の調査区の掘削を実施している（A地点）．重機による掘削をおこなったところ，地表下0.7～1.3mの深さで南北方向にガスや排水の既設管が計７本確認できた．この既設管の掘り方により東側で地表下約0.9m，西側では地表下約1.8mまで現代埋土が堆積していた．調査区中央より東側では，地表下0.9m程まで掘削したところ近世の包含層らしき暗褐色土が検出された．掘削予定深度が地表下1.5mであったため，施工範囲の南北２m，東西0.8mのみを人力で掘削した．暗褐色土からは近世・近代の陶磁器片が，さらに地表下約1.2mで検出された黒褐色土からは古代の土師器・須恵器片が少量得られた．

写真217　電気管部分掘削状況２（南より）

写真218　通信線路部分作業風景（南より）

写真219　通信線路部分掘削状況（南西より）

また，地表下1.5mで黄褐色土が検出されたため，この上面で遺構検出をおこなったが，遺構は確認されなかった．掘削が施工深度まで到達したため，慎重に工事を進めるよう指示し，立会調査を終了した．

写真220　消火配管部分作業風景（東より）

写真221　消火配管部分掘削状況（北東より）

写真222　A地点作業風景（南より）

写真223　A地点掘削状況（北西より）

写真224　A地点遺構面検出状況（北東より）

6.（本荘中他）基幹整備（給水設備等）工事（本荘中地区分）に伴う立会調査（1345）

＜調査期間＞

2014年2月25日～3月24日

＜調査面積＞

826㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

医学部の基幹整備に係わる工事で，排水・給水・電気配管等の新設および支障樹木撤去，アスファルト舗装，フェンス基礎などが含まれる．

本荘中地区の南西角，医学部ポンプ室まわりでは，アスファルト舗装に先立つ支障樹木撤去の立会調査をおこなった．掘削箇所は全て地表下0.9～1.1mまで現代埋土しか確認できず，抜根後の精査でも掘削面からビニールや現代瓦片が出土した．また，ポンプ室周辺を地表下0.4mまで98㎡の範囲で掘削する計画であったが，1332調査地点の成果も加味すると，包含層の検出される深度ではないため，それ以上の掘削をおこなわないよう指示し，引き渡した．また，この他ポンプ室周辺に屋外給水・排水・電気配管および消火管，ハンドホールの設置箇所については，いずれも地表下0.4～06mと掘削深度が浅いため，上記の理由から慎重に掘削をするように指示し，受け渡した．ただし，屋外排水の桝の設置箇所が地表下1.1mの掘削深度であるため，立会のもと掘削を行うよう指示していたが，業者および施設担当者の失念により工事立会をおこなうことなく，施工を完了していた．よって，量水器・ハンドホールの埋設箇所8㎡（図6－1345）は，埋蔵文化財の記録保存がおこなわれることなく破壊された可能性があることを明記しておく．

また，本荘中地区の周囲をめぐる屋外給水・ガス・電気配管の設置に伴う立会を実施した．掘削深度は0.65～

0.9mであり，包含層の掘削が懸念されたため，一定間隔で21か所に1.5×1.5m程の試掘トレンチを設けた．本荘中地区の西側（試掘トレンチ１～21）では，掘削深度が0.7～0.75mであり，全てが現代埋土であった．ただし，試掘トレンチ８では，地表下0.9mで近世らしき包含層が検出されており，上面からは寛永通宝が１点出土している．また，本荘中地区東側の試掘トレンチ11では，地表下0.55～0.65mで近世遺物を少量含む暗褐色の遺物包含層が検出された．そのため，このトレンチを東西に拡張し，掘削深度である地表下0.7mまで人力による掘り下げをおこない，遺物を取り上げた．この他の地点では，試掘トレンチ15や18などで，深いところで地表下0.8～0.9mの掘削をおこなったが，全て現代埋土で，近世・近代の陶磁器片が出土するのみだった．全ての試掘トレンチで遺構の検出はなく，文化層に影響はなかったため，各地点の掘削予定深度を越えないよう指示し，終了した．

写真225　樹木撤去部分作業風景（南東より）

写真226　樹木撤去部分掘削状況（北より）

写真227　試掘トレンチ２掘削状況（東より）

写真228　試掘トレンチ８掘削状況（北西より）

写真229　試掘トレンチ11作業風景（南西より）

写真230　試掘トレンチ11掘削状況（南東より）

写真231　試掘トレンチ18掘削状況（南より）

Ⅱ－5　大江地区（薬学部）（図7参照）

1．（大江北）薬学部倉庫1とりこわし工事に伴う立会調査（1308）

＜調査期間＞

2013年7月19日

＜調査面積＞

47.03㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

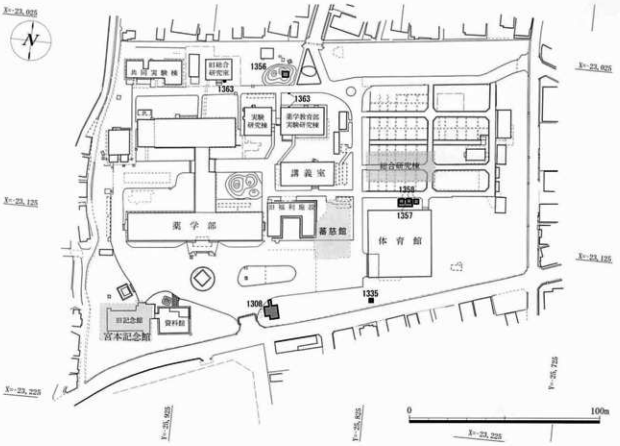
＜調査概要・結果＞

薬学部倉庫の取り壊しに係る立会調査である．建物自体が緑石に仕切られた緑地帯にあり，建物の床面が盛土により，アスファルト部分から0.2mほど上に位置している状態であったことと，掘削深度が0.65m程度であったことから，遺構・遺物ともに検出されなかった．埋蔵

写真232　作業風景（東より）

写真233　建物基礎部分掘削状況（南より）

図7　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）



文化財には影響がないものと考え，工事関係者に慎重に工事するように指示して立会調査を終了した．

写真234　建物基礎部分掘削状況（東より）

2．（大江北）薬学部北門入口胸像設置工事に伴う立会調査（1356）

＜調査期間＞

2014年3月7日

＜調査面積＞

10.2㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

大江北の北門入口西側への胸像設置の基礎施工にかかわる立会調査を実施した．

一部法面をつけるために当初予定より拡張し，3.5×2.9mの調査区を設置した．高さ1m程のマウンドの東裾にあたり，西側で地表下0.75m，東側で0.2m程掘り下げた．全て円礫混土で，近代瓦やガラスが混入しており，マウンドが現代の盛土であることがわかった．遺物や遺構は検出されず，文化層への影響はなかった．

写真235　作業風景（西より）

写真236　掘削状況（南西より）

写真237　作業風景（東より）

写真238　掘削状況（東より）

3．（大江北）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1357）

＜調査期間＞

2014年３月７日

＜調査面積＞

21㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

大江北の体育館北側に設置予定の備蓄倉庫の基礎施工にかかわる立会調査を実施した.

掘削範囲は７×３ｍの東西に長い長方形だが，中央部は後述する1358調査地点の立会調査により地表下0.5mまで文化層に影響がないことが把握できていたため，調査区の西端と東端に東西0.8m×南北３ｍの試掘トレンチを設けて対処した．層序は上から腐葉土，砂混灰青土，炭混暗褐土で，地表下0.55mまでガラス片が確認でき，全て現代埋土であった．また，念のため調査区全体の掘削後にも確認をおこなったが，いずれも現代埋土内に収まっており，遺構・遺物は検出されなかった.

4．（大江北）支障樹木撤去に伴う立会調査（1358）

＜調査期間＞

2014年３月７日

＜調査面積＞

3.6㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

大江北の体育館北側の支障樹木抜根にかかわる立会調

写真239　作業風景（北西より）

写真240　掘削状況（北西より）

査を実施した．

支障樹木は３本で，重機によって根の周りを円形に地表下0.5m程まで掘り下げた後，抜根した．それぞれ，1.2×1.2m，0.8×1.5m，0.8×1.2mの範囲を掘削した．

全て現代埋土であり，遺物・遺構は検出されず，文化層への影響は一切なかった．

5．（大江北）PHS 更改工事に伴う立会調査（1335）

＜調査期間＞

2014年１月31日

＜調査面積＞

0.64㎡

＜調査員＞

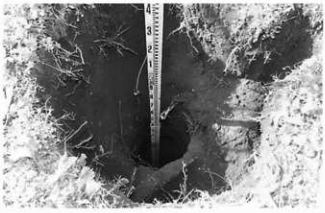
柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

既存のコンクリート柱の抜取と，同箇所に柱を新設する工事である．具体的な工事内容は，柱の周りを幅0.3m程度，深さ0.7～0.9m前後掘削し，基礎を露出させた後クレーンによる抜取り，その後，柱の底の部分から，大型の掘削機によってさらに0.2mほど掘り下げるものである．電柱の底が埋土内であったこと，電柱の底は地

写真241　作業風景（西より）

写真242　掘削状況（北より）



表下より２m程下であることから，埋蔵文化財への影響はないものと判断し，慎重に工事するように指示して立会調査を終了した．

6．（黒髪南他）都市ガスメーター取替工事に伴う立会調査（1363）

＜調査期間＞

2014年３月28日

＜調査面積＞

1.365㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

薬学部の大学院実験研究棟と放射性同位元素総合研究施設にガスメーターを取り付けるための工事である．

大学院実験研究棟北側と，放射性同位元素総合研究施設の南側において，建物に引き込まれている既設管を検出し，建物の壁際で分岐させる工事である．

大学院実験研究棟では1.0×1.4mの範囲を深さ0.93mまで，放射性同位元素総合研究施設では1.3×1.45mの範囲を深さ0.75mまで掘削した．いずれも埋土内であり，遺構・遺物の検出はなかった．

写真243　大学院実験研究棟北側作業風景（東より）

写真244　大学院実験研究棟北側掘削状況（北より）

写真245　放射性同位元素総合研究施設棟南側作業風景（南西より）

写真246　放射性同位元素総合研究施設棟南側掘削状況（南より）

Ⅱ－6　京町地区　（図8参照）

1．（京町）教育学部附属中学校門扉改修工事に伴う立会調査（1341）

＜調査期間＞

2014年2月21日

＜調査面積＞

20㎡（1.75㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

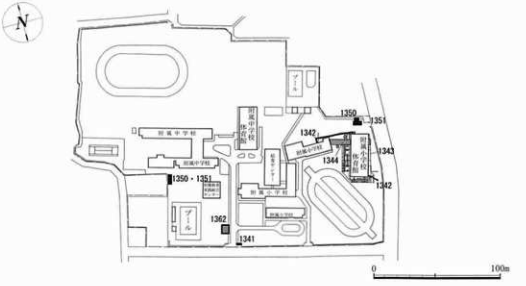
＜調査概要・結果＞

附属中学校の正門門扉について，既設の門扉基礎を撤去し，新しく改修する工事である．現在設置している門扉の基礎コンクリートを破砕し，下の砕石上面まで掘削した．既設門扉の掘削範囲内に収まり，包含層や遺構面に達することはなかった．

写真247　作業風景（南より）

写真248　掘削状況（南より）

図8　京町地区における調査地点配置図（1/3000）



2.（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事に伴う立会・発掘調査（1342）

＜調査期間＞

2014年2月25日・3月13～14日・17日

＜調査面積＞

48.7㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

小学校校舎から体育館を繋ぐ，電気配線と外灯設置のための工事である.

小学校校舎と体育館を繋ぐ配線部では，地表下0.3～

写真249　校舎北側作業風景（北より）

写真250　遺構面（ローム）検出状況（南より）

写真251　外灯基礎掘削作業風景（西より）

写真252　外灯基礎部掘削状況（西より）

0.4mで遺構面である地山(ローム層)を検出した．小さなピット状の窪みが数個検出された．遺物の出土はない．

体育館南東隅の外灯設置工事は，既設の外灯を撤去した跡でおこなった．地表下1.2mまで掘削したが，既設外灯の掘り方内に収まった．遺構・遺物ともに確認されなかった．

3．(京町) 教育学部附属小学校体育館改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1343）

＜調査期間＞

2014年2月25日，3月12～13日

＜調査面積＞

588.0㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

体育館周辺に消火管・給水管・排水管を敷設する工事である．

消火管は，電気工事とほぼ重複するルートで掘削した．体育館の北西部では地表下0.6mほど掘削したが，体育館建設時の掘り方内であり遺構・遺物の検出はなかった．

給水管は小学校校舎から体育館西側，南側をめぐり，体育館の東南側までの範囲である．小学校校舎から体育館西側では，遺構面である地山（ローム層）が0.3～0.6mで検出された．ピット状の窪みが1個検出されたが，ほかに遺構は検出されなかった．体育館南西側と南側で5か所の試掘をおこない，埋土内に収まることを確認した．体育館南東部は排水管とほぼ重複する箇所で排水管の試掘を参考とした．埋土内に収まることを確認した．遺構・遺物の検出はない．

排水管は，小学校校舎北東隅から体育館北西隅を繋ぐルートと，および体育館西側・南側・東側にはしご状に配管し，グランド東部を通って敷地南東隅の排水桝まで繋ぐルートである．

小学校・体育館を繋ぐルートは，おおむね電気および消化管と重複するため同時に掘削している．小学校校舎北東隅から北に延びる管路では，一部で遺構面を検出したが，遺構は確認されなかった．体育館西側は，庇基礎や洗い場などと同時に掘削をおこない確認した．遺構面を検出したが，遺構は確認されなかった．南側は給水管とあわせて試掘したが，埋土内に収まることを確認した．体育館東側では2か所で試掘をおこなったが，こちらも埋土内で収まることを確認した．

写真253　消火管掘削作業風景（西より）

写真254　消火管掘削状況（西より）

写真255　体育館西側給水管掘削状況（南より）

写真256　体育館西側給水管作業風景（南西より）

体育館南東隅から敷地南東隅までの，グランドを通るルートは北から掘削をおこなった．北の起点では深さは地表下1.3m，終点では地表下２ｍの勾配が付く．ルートの北半部分では遺構面が検出されたが，遺構は確認されなかった．南半は，旧建物の跡が残っているなど撹乱を受けており埋土内で，桝設置部分では地山を検出する箇所もあったが，遺構は確認されなかった．終点では遺構面を確認したが，遺構は確認されなかった．遺物の出土もない．

写真257　体育館南東給水管掘削作業風景（北西より）

写真258　体育館南東給水管試掘状況（北西より）

写真259　体育館東側排水管掘削作業風景（南より）

写真260　体育館東側排水管掘削状況（南より）

写真261　排水管掘削状況１（南より）

写真262　排水管掘削状況２（北より）

写真263　排水管掘削状況３（北より）

4．（京町）教育学部附属小学校体育館改修その他工事に伴う立会調査（1344）

＜調査期間＞

2014年２月24日

＜調査面積＞

702.9㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

附属小学校Ｂ棟東側と体育館西側に植栽されている樹木が，支障となるため撤去した．校舎側の樹木抜根は，2.4×2.5mの範囲を地表下0.9mまで掘削した．途中，地山（遺構面）であるローム層が検出されたが，一度掘り起こしたと考えられる状態であった．遺構は検出されなかった．体育館北西に位置する樹木は2.5×2.5mの範囲を掘削した．地表下0.3mでローム層を検出したが，遺構は検出されなかった．体育館西側に植栽されていた樹木は，水飲場の基礎掘削と一緒に撤去した．水飲場は地表下0.4m程度で遺構面を検出したが，遺構・遺物は検出されなかった．

体育館西側に設置する足洗場の基礎掘削をおこなった．地表下0.4～0.5mで遺構面を検出したが，遺構・遺物は

写真264　体育館北西側作業風景（西より）

写真265　校舎側掘削状況（東より）

写真266　体育館北西側掘削状況（西より）

写真267　体育館西側樹木撤去・水飲場掘削状況（北より）

写真268　足洗い場掘削状況（南より）

写真269　屋外階段基礎部作業風景（北より）

写真270　屋外階段基礎部掘削状況（北より）

写真271　タイヤ撤去作業風景（北より）

写真272　タイヤ撤去状況（北より）

写真273　庇基礎１作業風景（北より）

写真274　庇基礎１掘削状況（西より）

写真275　庇基礎体育館南側掘削状況（南東より）

確認されなかった．

体育館北東部に設置する屋外階段の基礎設置予定箇所を設置するため掘削をおこなった．体育館建設時の掘り方の範囲内であったと考えられる．埋土内で収まり，包含層・遺構面は検出されなかった．

遊具用のタイヤを撤去した．周囲を掘削することなく，ワイヤーを掛けて引き抜いた．遺構・遺物の検出はなかった．

体育館西側と南側に庇を設置するため，庇の支柱基礎部を掘削した．体育館西側では２×２ｍ前後の基礎部を８箇所，体育館南側では６箇所設置予定である．体育館西側では，地表下0.4～0.6mで遺構面を検出したが，遺構は確認されなかった．体育館南側は，屋外階段やスロープ設置箇所と併せて掘削したが，撹乱を受けており埋土内で収まった．

5．（京町）支障樹木撤去に伴う立会調査（1350）

＜調査期間＞

2014年２月28日

＜調査面積＞

40.6㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

京町地区において附属小学校と中学校において備蓄倉庫を設置するにあたり，支障となる樹木の撤去をおこなった.

小学校側では，チェーンソウで解体しつつ，樹木の周囲を地表下0.6～0.7m掘削するなどして３本の樹木撤去を行った．もっとも深いところでは地表下1.0mまで掘削したが埋土内であった．中学校側も同様に，３本の樹木の周囲を地表下0.6～0.7m掘削して撤去をおこなった.

写真276　小学校側掘削前状況（北より）

写真277　撤去状況（西より）

写真278　中学校側掘削前状況（南より）

写真279　撤去状況（南より）

埋土内でおさまった．樹根の直下部分において，地表下0.9～1.0mでは一部遺構面であるローム層を確認したが，それ以上の掘削は無く，遺構・遺物も検出されなかった.

6．（京町）備蓄倉庫新設に伴う立会調査（1351）

＜調査期間＞

2014年３月10日

＜調査面積＞

49㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

京町地区の２箇所に災害用の備蓄倉庫を新設するための立会調査である.

小学校側では，敷地協会の塀から1.3m南側で3.7×7.3mの範囲を掘削した．地表下0.7mで地山となるローム層を検出したが，撹乱されており，全体として埋土内であった．遺構・遺物の検出はない.

中学校側は，コンピューター棟の北西部，民家との境界フェンスに沿って，3.2×6.8mの範囲を掘削した．ここでは３箇所のトレンチを設定して掘削をおこなった.

写真280　小学校側作業風景（北東より）

写真281　小学校側掘削状況（東より）

写真282　中学校側作業風景（北東より）

写真283　中学校側北側トレンチ掘削状況（東より）

西側（フェンス）の地表が高くなっており，東側の地表を基準とすると地表下0.5mの掘削である．いずれの地点も埋土内であり，遺構・遺物の検出はなかった．

7．（京町）教育学部附属中学校卒業記念時計台設置工事に伴う立会調査（1362）

＜調査期間＞

2014年３月27日

＜調査面積＞

1.44㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

京町の南門西側の時計台設置にかかわる立会調査を重機掘削によりおこなった．

掘削範囲は1.2×1.2mで掘削深度は１mであった．掘削箇所は自然地形より１m程盛土されていた．掘削箇所の層序は上から表土，山砂，黒褐色の現代埋土の順で堆積しており，地表下1.05mまでガラスの混じる現代埋土であった．遺構・遺物は検出できず，文化層への影響もなかった．

写真284　作業風景（北西より）

写真285　掘削状況（北より）

Ⅱ－7　城東地区

1．（城東）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事に伴う立会調査（1330）

＜調査期間＞

11月28日～２月７日

＜調査面積＞

208.49㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

教育学部附属幼稚園の改修工事である．調査地点が複数におよぶため，数回に分けて立会調査をおこなった．

主な工事内容は改修工事に伴う建物基礎設置と電気設備工事である．基礎設置に伴う掘削深度は，最も深い地点で1.3m程度あるが，いずれの地点も現代埋土および水成の黒色混砂層であり，遺物・遺構の検出はなかった．電気設備に係る掘削は，後述する1336調査地点と並行して立会調査をおこなった．深い地点で1.1m程掘削したが，いずれも現代埋土であった．このため，工事を慎重に行うよう指示し，立会調査を終了した．

写真286　建物基礎部分掘削状況１（東より）

写真287　建物基礎部分掘削状況２（東より）

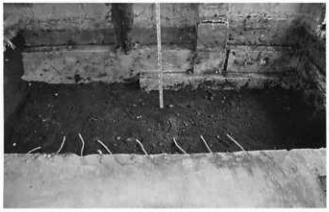


写真288　建物基礎部分掘削状況３（東より）

2．（城東）教育学部附属幼稚園管理棟等改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1336）

＜調査期間＞

２月５日

＜調査面積＞

529.1㎡

＜調査員＞

柴田　亮.

＜調査概要・結果＞

附属幼稚園の改修に伴う機械設備工事である．給排水・ガス工事など工事内容は多岐におよび，掘削面積も多いため，掘削予定部分に25か所の試掘をおこない，立会調査をおこなった．掘削深度は最も深いもので1.2mであるが，いずれも現代埋土および黒色の水成砂層であり，包含層・遺構の検出は認められなかった．このため，文化財への影響はないと判断し，立会調査を終了した．

写真289　電気管部分掘削状況（東より）

写真290　水道管部分掘削状況（南より）

写真291　ガス管部分掘削状況（北より）

3．（城東）教育学部附属幼稚園ブロック塀改修工事に伴う立会調査（1352）

＜調査期間＞

2014年2月28日

＜調査面積＞

272㎡

＜調査員＞

柴田　亮．

＜調査概要・結果＞

附属幼稚園の周りのブロック塀を改修する工事である．掘削は深さ0.8m程度であったが，すべて現代の埋土内であった．そのため，慎重に工事するように指示し，立会調査を終了した．

写真292　③地点掘削状況（南より）

写真293　⑤地点掘削状況（東より）

跋　文

2013年度は設立２年目の埋蔵文化財調査センター（以下「センター」.）にとって多事な年だった．東日本大震災からの復興を含めた経済振興策の影響をうけ，本年度大学から提示された業務量はセンターのマンパワーをはるかに超えたものであったため，昨年末以降人員の手配をめぐって施設や大学との交渉が続いた．

幸いにも要求が認められたことから，熊本大学社会文化科学研究科を修了したての柴田亮氏が，有期雇用職員としてセンターに１年間在籍することになった．柴田氏は大坪助教に鍛えられながら現場武者修行の覚悟で立会ならびに発掘調査に没頭し，夏以降は国際革新技術研究拠点施設新営工事にかかわる発掘調査を単独で担当するまで力をつけた．氏にとっては初めての現場運営であり，年配の作業員の指揮を含めて苦労も多かったことと思うが，無事調査を完遂されたことに拍手を送りたい．10月15日，山野ケン陽次郎氏が助教として赴任された．山野氏は熊本大学社会文化科学研究科で博士号を取得された後，鹿児島大学と奈良文化財研究所において研鑽を積んだ気鋭の考古学研究者である．赴任当日から現場にはいり，以来即戦力となって業務を進めてくれている．12月，熊本県での調査経験の長い浦辻栄治氏が有期雇用職員として翌年３月まで現場にはいってくださった．こうしてなんとか目前の発掘調査をきりぬけたのである．

2013年度は学長裁量経費による報告書作成の２年目であり，松田准教授と大坪助教が担当された．大坪助教は秋までの発掘調査，冬からの報告書作成と，センター業務をよく切り盛りしてくれ，お二人によって342頁に及ぶ大部の報告書第10集が完成した．センターにとってこれほど嬉しいことはない．もう一つ喜ばしいことは，念願であった出土品の展示室が，秋の学園祭に合わせてセンター１階にオープンしたことである．先史時代以降の大学の歴史を遺物で語る「地下の文化財」展示は，さっそく学内の講義に活用されている．松田准教授による学内外の方々を対象とした文化財散歩も始まった．発掘調査と同様，成果の公表を通した社会貢献もセンターの大事な役割である．

センター業務の両輪の一である事務補佐員として，林ひとみさんが４月に赴任されたが都合で退職され，６月に大崎喜美子さんが引き継いでくださった．気っ風のいい性格と高い事務能力におおいに助けてもらっている．

とにかく多事な１年であった．次年度以降，教員の研究時間を少しでも多く確保できることを願っている．

2015年３月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

Summary

In 1985, Kumamoto University planed a reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological operation office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area), faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area), and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level 18 ~ 25m) formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level 12 ~ 13m) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following: 11 excavation, 63 presence investigation. The main results are the following.

At 1309 excavation spot in the kurokamimachi site (south area), we excavated the site before the construction of International Research Center for Advanced Science and Technology. A result of the investigation, we found about 120grave of Kumamoto prison inmates of Edo period and modern period.

At 1310 excavation spot in the kurokamimachi site (south area), we excavated the site before the performing the lifeline renovation. Elongated plots such as trenches, kurokamimachi south area east half ranged together. We have detected the ruins and relics of ancient in most all points. In addition, from the depth of the layer we never have investigated so far, a large amount of pottery of Jomon period late preceding page was excavated. In the future, it is likely that new cultural layer and remains are discovered.

At 1321 excavation spot in the Honjo site (north area), we excavated the site before put in place such as parking and facilities of drainage. To repair an underground waterways within the University Hospital site, a result of investigating the side of the canal, revealed that the remaining site until just off the canal.

At 1317, 1318 and 1319 excavation spot in the Honjo site (central area), we excavated the site before we have conducted excavation prior to construction the private power generation facilities, buried piping, underground tank. A result of the investigation, dwelling ruins and groove of ancient (Recorded history) has been detected many. These are seen as part of the settlement, which was confirmed in the At 9801 excavation spot. We considered that site distributed to the east end of the Honjyo south area.

In addition, we have conducted excavations before renovation at gymnasium of University Elementary School in Kyomachi area. There are not enough information about the archaeology of this area. This time, it was revealed that remains surface in the northeast side of the site is shallow, the remaining state is good, remains are small. In this year obtained results, which contains many factors to consider when developing the future of the plan of investigation.

구마모토 대학은 건물이 낡아서 1985년 부터 재건축 계획을 세우고 있었으나, 대학이 있는 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다. 그 때문에 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994년 부터 조사를 해 왔다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부·이학부 (남지구), 교육학부·법학부·문학부 (북지구)가 자리한 구로카미<黒髪>캠퍼스로, 구로카미마치 (黒髪町) 유적의 일부에 해당한다. 이 유적은 타쓰타산 (立田山) (표고 151.6m) 기슭의 저위하안단구 (표고 18 ~ 25m) 상에 위치하며, 고대 고카이 (蔯嚢) 의 역전으로 추정되고 있다. 또 하나는 의학부·보건학과 (남지구), 대학부속병원 (북지구)이 자리한 혼조 (本荘) 캠퍼스이다. 이 지구는 혼조 (本庄) 유적의 일부이며, 구로카미마치유적과 마찬가지로 시라카와 (白川) 강의 저위하안단구 (표고 12 ~ 13m) 상에 위치한다. 혼조유적은 구로카미마치유적으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다. 이 유적과 근접한 곳에 오오에 (大江) 유적과 신야시키 (新屋敷) 유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다.

2013년도에 실시된 조사는 발굴조사 11건 입회조사 62건이었다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

구로카미마치유적 1309지점은 학선기술 거점시설을 건설하기 전에 발굴조사를 실시했다. 조사 결과 근·현대 구마모토 교도소 수감자의 무덤이 약 120기 검출되었다.

구로카미마치유적 1310지점은 라이프라인 개수 공사를 하기 전에 발굴조사를 실시했다. 트랜치처럼 길쭉한 조사구가 구로카미 남지구 동쪽일대까지 미쳤다. 거의 전지점에서 역사시대 유구와 유물들이 검출되었다. 또 최근까지 조사한 적이 없는 깊은 지층에서 조몬시대 후기전엽 토기가 다수 출토되었다. 앞으로 새로운 문화층이나 유구가 발견될 가능성이 높다.

혼조유적 1321지점은 주차장과 배수설비 등을 정비하기 전에 발굴조사를 실시했다. 대학부속병원 부지 안에 있는 지하용수로를 개수하기 위해 용수로 옆을 조사 한 결과, 용수로 바로 옆에도 유적이 남아 있는 것이 밝혀졌다.

혼조유적 1317·1318·1319지점은 자가발전설비, 매설배관, 지하탱크 등을 공사하기 전에 발굴조사를 실시했다. 역사시대 주거지와 도랑이 다수 검출되었다. 9801지점에서 확인된 취락의 일부로 보인다. 유적은 혼조 남지구 동쪽 끝까지 분포할 것으로 생각된다.

이외에도 교마치지구는 부속초등학교 체육관 개수 공사 전에 발굴조사가 이루어졌는데 이 지구의 매장문화재에 관한 정보는 적었다. 이번 조사에서 부지 북동쪽에서는 유구면이 얕아 유존상태는 양호하지만 유구가 적다는 것이 밝혀졌다.

이번 연도에 얻은 성과에는 앞으로 조사계획을 세우는 데 있어 고려되어야 할 새로운 요소가 여럿 포함되어 있다.

付篇１　2013年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．１．　熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H23.9.22～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という。）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする。

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務を行う。

(1)　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。

(2)　出土した埋蔵文化財の整理，保管及び保存に関すること。

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。

(4)　その他センターの目的を達成するために必要な事項。

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く。

(1)　センター長

(2)　専任教員

(3)　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長が行う。

２　センター長は，センターの業務を掌理する。

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長が行う。

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める。

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター長

(2)　センターの専任教員

(3)　文学部，教育学部，法学部及び医学部附属病院から選出された教授又は准教授　各１人

(4)　大学院自然科学研究科及び大学院生命科学研究部から選出された教授又は准教授　各２人

(5)　運営基盤管理部の施設担当部長

(6)　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する。

３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。

４　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする。

５　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない。

（委員会の審議事項）

第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規

則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く。）を審議する。
(1) センターの業務に関すること。
(2) センター長候補者の推薦に関すること。
(3) 施設及び予算に関すること。
(4) その他センターの管理運営に関すること。
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない。
２　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる。
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する。
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める。

附　則
１　この規則は，平成23年10月１日から施行する。
２　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する。
３　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考されたものとみなす。
４　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする。
５　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする。

２．2013年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
		山野　ケン陽次郎（2013.10.15～）
＜技術補佐員＞	（2013年４月～2014年３月）	柴田　亮
＜事務補佐員＞	（2013年４月～2013年５月）	林　ひろみ
	（2013年６月～2014年３月）	大崎　喜美子
＜室内作業員＞	（2013年６月～2014年２月）	江口　路
		鬼塚　美枝
	（2013年６月～2014年３月）	小山　正子
		首藤　優子
		末吉　美紀
		増井　弘子
		山嵜　早苗
		井上　裕美
	（2014年10月～2013年３月）	入江　由真

2　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2013.4.1～2015.3.31）
委員	杉井　健	（文学部准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	黛　武彦	（教育学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大澤　博明	（法学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	副島　顕子	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	宇宿功市郎	（大学院生命科学研究部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大森　久光	（大学院生命科学研究部（保健学系）教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	本山　敬一	（大学院生命科学研究部（薬学系）准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大村谷昌樹	（生命資源研究・支援センター准教授）	
	佐藤　治行	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2013.4.1～2015.3.31）
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2013.4.1～2015.3.31）
	松田光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	山野　ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.10.15～）

審議事項

2013年４月25日　議題

1）平成24年度埋蔵文化財調査センター支出実績について

2）平成25年度予算配分（案）について

3）平成25年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について

4）「発掘調査報告書」刊行スケジュールについて

5）出土遺物の譲与申請手続きについて

報告

1）平成24年度埋蔵文化財発掘調査結果について

2）その他

付篇２　埋蔵文化財調査センター2013年度調査・研究活動記録

【調査員】

大坪志子

・第10回　日・韓新石器時代共同学術大会研究発表「縄文時代早期～前期の石製装身具」2013年７月13－14日，大韓民国済州大学校博物館．

・青谷上寺地遺跡出土玉関連資料に係る調査指導，2013年８月19－20日，鳥取県埋蔵文化財調査センター青谷調査室．

・徳島市立考古資料館開館15周年記念特別企画記念シンポジウム研究発表『玉の魅力に迫る　―四国と周辺の玉生産と玉文化―』「九州の玉生産と流通　―四国との関係を中心に―」，徳島市教育委員会・徳島市立考古資料館・日本玉文化学会，2013年11月９－10日，徳島市立考古資料館．

・島根県荒神谷博物館　第99回講演会　「東アジアの装身具から～縄文時代と弥生時代の玉作り」，2013年11月16日，島根県荒神谷博物館．

・「縄文管玉研究の展望」『玉文化』第10号，日本玉文化研究会，pp.25-30.

・「縄文時代後・晩期九州의石製装身具와韓半島」『한국 선사・고대의 옥문화 연구』복천박물관，pp.138-144.

・「耳状耳飾」『季刊考古学』第125号，雄山閣，pp.50-54

・「九州の大珠」『先史学・考古学論究』Ⅵ，龍田考古会，pp.223-237.

・「第６節　4・5号甕棺墓出土の勾玉の材質分析」『吹上Ⅵ』日田市埋蔵文化財調査報告書第112集，34-36.

・「東アジアの装身具から～耳状耳飾を中心に～」山陰中央新聞11月13日朝刊，14面．

・熊大ラジオ公開授業「知的冒険の旅」第13回　2014年１月27日．

山野ケン陽次郎

・「コラム　シャコガイ製斧」『季刊考古学』第125号，雄山閣，pp.95-96.
・「先史琉球列島におけるマクラガイ科製玉類の研究」『奄美考古』第７号，奄美考古学会，pp.1-17.
・「先史琉球列島におけるイモガイ科製貝輪の研究」『先史学・考古学論究』Ⅵ，龍田考古会，pp.35-53.
・「先史琉球列島における貝製品の変化と画期－貝製装飾品を中心に－」『琉球列島先史・原始時代に・おける環境と文化の変遷に関する実証的研究　研究論文集』第２集，六一書房，pp.277-292.
・「先史琉球列島における円盤状貝製品の研究」『Archaeology from the South Ⅱ　新田栄治先生退職記念論文集』，新田栄治先生退職記念事業会，pp.265-278.
・「第４節　出土遺物（２）：骨製品・貝製品」長墓遺跡調査団（編）『南嶺の長墓遺跡調査研究』１，西九州大学持続的環境文化研究所，pp.35-53.

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう 20
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 20
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	20
編著者名	木下尚子・大坪志子・山野ケン陽次郎・柴田亮・大崎喜美子
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL.096-342-3832 FAX.096-342-3832
発行年月日	2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０２地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 55″	130° 43′ 40″	20130521 ～ 20130710	395.00㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 54″	130° 43′ 40″	20130618 ～ 20130712	1368.00㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０９地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 43″	130° 43′ 36″	20121001 ～ 20121218	632.00㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 43′ 46″	20130806 ～ 継続中	5275.00㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 42″	130° 42′ 49″	20131101 ～ 20131218	100.10㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１８地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 42″	130° 42′ 49″	20131101 ～ 20131218	236.40㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１９地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 42″	130° 42′ 49″	20131101 ～ 20131218	155.90㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２１地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20131115 ～ 継続中	989.50㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３３３地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 50″	130° 42′ 41″	20140117 ～ 20140212	101.56㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
きょうまちだい 京町台遺跡 （１３４２地点）	くまもと 熊本県 熊本市 きょうまち 京町	43 201	238	32° 49′ 5″	130° 42′ 18″	20140225 20140313 ～ 20140317	48.70㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０２地点）	集落址	古代	竪穴住居址・ピット	土師器・須恵器	
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０６地点）	集落址	古代	溝・ピット	土師器・須恵器	
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３０９地点）	集落址	近世・近現代	土壙墓・畑址	骨壺・数珠・囚人札・人骨	
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	集落址	縄文・古代・近世・近現代	竪穴住居址・溝・ピット・土坑・柱穴	縄文土器・石器・土師器・須恵器・紡錘車・古銭・鉄製品・銅製品・陶磁器・土製品・動物骨	
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１７地点）	集落址	古代・中世・近世	竪穴住居址・溝・ピット	土師器・須恵器・瓦質土器・緑釉陶器・動物骨	
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１８地点）	集落址	古代・中世	竪穴住居址・ピット	土師器・須恵器	
ほんじょう 本庄遺跡 （１３１９地点）	集落址	古代・中世	竪穴住居址・溝・ピット	土師器・須恵器	
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２１地点）	集落址	古代	竪穴住居址・溝・ピット	弥生土器・土師器・須恵器	
ほんじょう 本庄遺跡 （１３３３地点）	集落址	古代	ピット	土師器・須恵器	
きょうまちだい 京町台遺跡 （１３４２地点）	集落址	古代	ピット？	なし	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報20
—2013年度—

平成27年３月31日　印刷
平成27年３月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2015